

高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

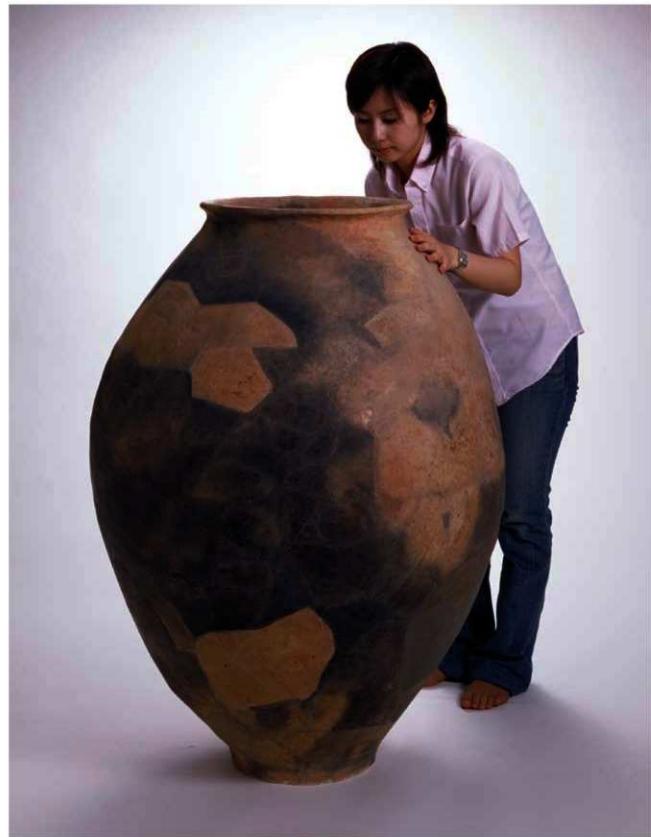
第8冊

奥の坊遺跡群VIII

(奥の坊遺跡 VII区)

2010年3月

高松市教育委員会



奥の坊遺跡出土弥生土器（器高 110.5cm）



奥の坊遺跡VI・VII区全景（上空から）

例　　言

- 1 本報告書は、高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8冊で、高松市高松町に所在する奥の坊遺跡Ⅷ区（おくのぼういせきⅧく）の報告を収録した。
- 2 発掘調査地ならびに調査期間は次のとおりである。
調　　査　地：高松市高松町奥ノ坊
発掘調査：平成11年11月10日～平成12年3月3日
整理作業：平成21年1月5日～平成21年12月28日
- 3 発掘調査から整理作業及び報告書編集まで高松市教育委員会教育部文化財課（平成19年度までは文化部文化振興課）文化財専門員大嶋和則が担当した。
- 4 発掘調査から整理作業、報告書執筆を実施するにあたって、下記の関係諸機関から御教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。（五十音順、敬称略）
香川県教育委員会、古高松土地改良区、地元自治会、地元水利組合
- 5 発掘調査から整理作業、報告書執筆まで下記の方々の御協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。（敬称略）
大野宏和・川部浩司・信吉純恵・増田ゆず・山内康郎（当時徳島文理大学大学院）、水田貴士・林田真典（当時徳島文理大学）、末光甲正（当時讃岐文化遺産研究会）
- 6 本調査に関連して、以下の業務を委託発注により実施した。
航空写真測量　　アジア航測㈱
遺物写真撮影　　西大寺フォト
- 7 挿図として、国土地理院発行1/25,000地形図「高松北部」「高松南部」「五剣山」「志度」を一部改変して使用した。
- 8 本報告の高度値はTPを基準とし、方位は国土座標第IV系（日本測地系）の北を示す。
- 9 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SD：溝　SH：堅穴住居跡　SK：土坑　SP：柱穴
- 10 調査は複数年度・複数調査区・複数遺構面になることが予想されたため、遺構番号は調査区番号、遺構面番号、遺構番号（3桁まで）の順に5桁の数字としている。（例：Ⅷ区・第1遺構面・土坑001=SK71001）ただし本書平面図では遺構番号（3桁まで）のみで省略している部分もある。
- 11 本書で使用した図版の縮尺は注記の無い場合は次のとおりである。
遺構：1/40　土器：1/4　石器：1/2
- 12 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 調査の経緯と経過	
第1節 事業全体の経緯と経過	1
第2節 発掘調査の経緯と経過	2
第3節 整理作業の経過	3
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の経緯と経過	
第1節 調査地の概要と基本手順	7
第2節 包含層出土遺物	7
第3節 遺構	17
第4章 まとめ	61
観察表	63
写真図版	69
報告書抄録	80

挿図目次

第 1 図 高松市東部運動公園整備事業発掘調査地	2
第 2 図 周辺道路分布図	6
第 3 図 駅区南壁土層断面図①	8
第 4 図 駅区南壁土層断面図②	9
第 5 図 駅区南壁土層断面図③	10
第 6 図 駅区南壁土層断面図④	11
第 7 図 包含層出土遺物実測図①	12
第 8 図 包含層出土遺物実測図②	13
第 9 図 包含層出土遺物実測図③	14
第 10 図 駅区遺構平面図	15
第 11 図 SH71001 平・断面図および出土遺物実測図	17
第 12 図 SH71002 ~ 71004 平・断面図	17
第 13 図 SH71005 平・断面図および出土遺物実測図	18
第 14 図 SH71006 出土遺物実測図	19
第 15 図 SH71006 平・断面図および出土遺物実測図	20
第 16 図 SH71007 平・断面図および出土遺物実測図	21
第 17 図 駅区検出土坑平・断面図①	23
第 18 図 駅区検出土坑平・断面図②	25
第 19 図 駅区検出土坑平・断面図③	28
第 20 図 駅区検出土坑平・断面図④	29
第 21 図 駅区検出土坑平・断面図⑤	32
第 22 図 駅区検出土坑平・断面図⑥	31
第 23 図 駅区検出土坑平・断面図⑦	36
第 24 図 駅区検出土坑平・断面図⑧	37
第 25 図 駅区検出土坑平・断面図⑨	40
第 26 図 駅区検出土坑平・断面図⑩	42
第 27 図 駅区検出土坑平・断面図⑪	45
第 28 図 駅区検出土坑平・断面図⑫	46
第 29 図 駅区検出土坑平・断面図⑬	48
第 30 図 駅区検出土坑平・断面図⑭	51
第 31 図 駅区検出土坑平・断面図	53
第 32 図 土坑出土遺物実測図①	54
第 33 図 土坑出土遺物実測図②	55
第 34 図 SD71001 ~ 71003/71005/71006 平・断面図 および SD71005 出土遺物実測図	56
第 35 図 SD71004 平・断面図および出土遺物実測図	57
第 36 図 SX71001 平・断面図	58
第 37 図 III・VI・VII区出土弥生土器実測図	59

挿表目次

表1 東部運動公園整備事業に伴う発掘調査経過	1
表2 奥の辺道路駅区整理作業工程表	3
表3 土器観察表	64
表4 石器観察表	67

写真図版目次

写真 1	VI・VII区全景（上側の調査区がⅥ区）	70	写真 27	SK71076 土層断面（南から）	74
写真 2	調査区状況（北から）	71	写真 28	SK71077 土層断面（南から）	74
写真 3	機械掘削状況（北から）	71	写真 29	SK71077 完掘状況（北から）	74
写真 4	完掘状況（北西から）	71	写真 30	SK71097 土層断面（東から）	74
写真 5	調査区北壁土層断面（西から）	71	写真 31	SK7104-SK71105 土層断面（東から）	74
写真 6	包含層掘削風景	71	写真 32	SK71117 土層断面（東から）	74
写真 7	道構築作業風景	71	写真 33	SK71117 完掘状況（東から）	74
写真 8	実測風景	71	写真 34	SK71119 土層断面（東から）	75
写真 9	SH71001 土層断面（南から）	71	写真 35	SK71120 土層断面（南から）	75
写真 10	SH71001 完掘状況（北から）	72	写真 36	SK71126 土層断面（西から）	75
写真 11	SH71002 土層断面（南から）	72	写真 37	SK71127 土層断面（南から）	75
写真 12	SH71003 完掘状況（南東から）	72	写真 38	SK71132 土層断面（北東から）	75
写真 13	SH71005 土層断面（南から）	72	写真 39	SK71134 土層断面（東から）	75
写真 14	SH71005 石劍出土状況（南西から）	72	写真 40	SK71134 完掘状況（南から）	75
写真 15	SH71005 完掘状況（南から）	72	写真 41	SK71135 土層断面（北から）	75
写真 16	SH71006 土層断面（北東から）	72	写真 42	SK71138 土層断面（北東から）	76
写真 17	SH71007 完掘状況（南東から）	72	写真 43	SK71159 土層断面（南から）	76
写真 18	SK71005-SK71006 土層断面（北東から）	73	写真 44	SK71160 土層断面（南東から）	76
写真 19	SK71011 土層断面（南から）	73	写真 45	SD71004 土器出土状況（北から）	76
写真 20	SK71014 土層断面（南東から）	73	写真 46	SD71004 土器出土状況（東から）	76
写真 21	SK71015 土層断面（東から）	73	写真 47	SD71004 完掘状況（西から）	76
写真 22	SK71014-SK71015 完掘状況（北東から）	73	写真 48	SX71001 土層断面（南から）	76
写真 23	SK71016 土層断面（東から）	73	写真 49	SX71001 完掘状況（北西から）	76
写真 24	SK71046 土層断面（北から）	73	写真 50	VII区出土遺物①	77
写真 25	SK71061 土層断面（南西から）	73	写真 51	VII区出土遺物②	78
写真 26	SK71074 土層断面（西から）	74	写真 52	VII区出土遺物③	79

第1章 調査の経緯と経過

第1節 事業全体の経緯と経過

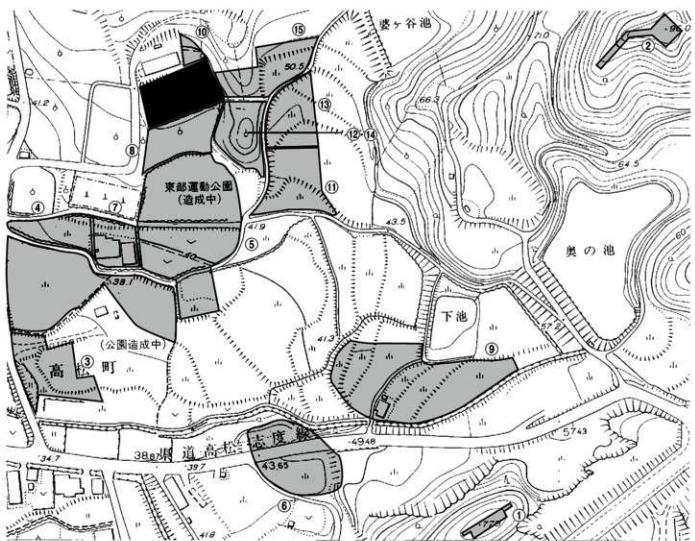
高松市では全市的なレベルでまとまった総合的なスポーツレクリエーション活動拠点として高松市東部運動公園（当時仮称）の整備が計画され、平成5年度には基本構想・基本計画が策定された。運動公園整備予定地となったのは高松市東部の丘陵地帯、高松市の宇奥ノ坊・大空・金川渓地区で、総事業面積は47.2haに及ぶ広大なものである。整備予定地には香川県の弥生後期を代表する大空遺跡をはじめ、奥ノ坊古墳およびスベリ古墳の存在が知られており、この他にも未周知の埋蔵文化財が所在する可能性は高いと考えられた。このため工事に先立ち整備予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて都市開発部（当時）公園緑地課と協議を行い、事前に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の包蔵状況を明らかにすることで合意した。

高松市教育委員会では、平成7年度から用地買収の完了した土地について試掘調査を実施した。平成7年度には大空古墳・金川古墳・奥ノ坊2号墳（その後の本調査で3号墳を追加）を発見した。これを受け、再度公園緑地課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、工事の前に記録保存を行うことで合意した。試掘調査はその後も継続して行い、平成9年度までに整備予定地内に203箇所のトレンチを掘削した。これにより、周囲の埋蔵文化財包蔵地であった大空遺跡・奥ノ坊古墳・スベリ古墳の3遺跡については、既に消滅しており事前の保護措置の必要がないことが判明した。一方、新たに奥の坊現前遺跡・奥の坊跡・奥の坊奥池西遺跡・大空跡の4集落遺跡が発見された。新たに発見された遺跡の総面積は約30000m²である。これらの遺跡についても順次公園緑地課と協議を行い、工事前に記録保存を行うことで合意した。

一方、運動公園整備工事は平成9年度から洪水調整池部分の発掘調査を行なった。このため洪水調整池部分の発掘調査を早期に着手し、平成12年度後半から全体の造成工事を行なうことが予定されていた。このため洪水調整池部分の発掘調査を終えることとした。調査対象地は遺跡面積約30,000m²のうち現道及び現水路を除く約26910m²とした。その後、工事計画が変更になり、平成14年度後半から全体造成工事が開始されることになり、発掘調査についても平成14年度前半まで期間を延長することとなった。このため、当初は掘削深度が深く、調査面積も広く、調査期間も短いことから、掘削業務を委託発注して調査を実施していたが、平成11年度より比較的掘削深度の浅い部分については直當で調査を行なった。また、平成15年1月には運動公園整備工事に使用する粘土を近傍の新田町久米池から採取することとなり、同地に所在する久米池遺跡についても工事に合わせて調査を実施した。

表1 東部運動公園整備事業に伴う発掘調査経過

番号	遺跡名	調査区	調査期間	調査面積 (m ²)	調査方法	報告書
1	試掘調査	全城	1995.8.4~1997.10.8	2,997	直営	I (1999.3刊)
①	大空古墳	全城	1996.2.14~1996.2.23	150	直営	
②	金川古墳	全城	1996.2.23~1996.3.8	300	直営	
③	奥の坊現前遺跡	I ~ III	1997.2.10~1997.3.24	1,560	委託	II (2004.3刊)
④	奥の坊現前遺跡	IV~VI	1997.10.7~1998.3.13	5,200	委託	
⑤	奥の坊遺跡	I ~ II	1998.9.14~1999.2.19	4,900	委託	V (2006.12刊)
⑥	大空北遺跡	全城	1999.4.16~1999.6.4	2,200	直営	III (2004.12刊)
⑦	奥の坊遺跡	V	1999.5.28~1999.7.13	700	直営	VI (2007.12刊)
⑧	奥の坊遺跡	VI	1999.11.10~2000.3.3	2,300	委託	未刊
⑨	奥の坊奥池西遺跡	VII	1998.9.14~1999.2.19	4,900	委託	本書
⑩	奥の坊遺跡	全城	2000.4.17~2000.7.25	3,600	直営	III (2004.12刊)
⑪	奥の坊遺跡	VII	2000.10.2~2000.12.28	300	直営	VII (2010.3刊)
⑫	奥の坊遺跡	IX	2000.10.5~2001.1.12	1,180	委託	VII (2010.3刊)
⑬	奥の坊古墳群(測量)	全城	2001.6.5~2001.6.27	—	直営	IV (2006.3刊)
⑭	奥の坊遺跡	X	2001.8.27~2002.1.18	1,320	委託	VII (2010.3刊)
⑮	奥の坊古墳群	全城	2001.9.4~2001.11.28	1,020	直営	IV (2006.3刊)
⑯	奥の坊遺跡	X I	2002.4.2~2002.7.5	1,180	直営	VII (2010.3刊)
	久米池遺跡	全城	2003.1.8~2003.1.21	200	立会	IV (2006.3刊)



第1図 高松市東部運動公園整備事業発掘調査地

第2節 発掘調査の経緯と経過

運動公園予定地内では、平成7年度から用地買収の進捗状況に応じて試掘調査を実施した。奥の坊遺跡は平成8年度の試掘調査によりその所在が明らかになったもので、遺跡は事業地の南縦斜面一体に広がりを見せ、その面積は約12000m²にのぼることが判明した。

遺跡の南西部が洪水調整池工事予定地に含まれ、平成11年度工事着手予定であったことから、平成10年度末までの発掘調査が望まれた。また、運動公園全体の造成が平成12年度下半期に予定されていたことから、その他の部分についても早期の調査が望まれた。都市開発部公園緑地課と協議を行った結果、遺跡の南西部を平成10年度・北東部を平成11年度で調査を実施することで合意した。しかしながら、平成9年度において、一部事業計画の変更があり、洪水調整池は平成12年度、造成は平成14年度下半期着手となることが決定したことから、平成10年度から5ヵ年をかけて発掘調査を実施することとなった。また、調査費用軽減のため一部直営方式により調査を実施した。

本報告書で掲載した調査区はⅧ区であり、掘削については業務委託して調査を実施した。なお、調査面積は1200m²で調査期間は平成11年11月10日～平成12年3月3日である。

第3節 整理作業の経過

東部運動公園整備に伴う発掘調査は平成14年度まで行われた。このため、各調査年度の翌年度に土器洗浄や接合等の基礎整理を行うのみで、本格的な整理作業は全調査終了後の平成14年度後半から実施した。奥の坊遺跡Ⅷ区の整理作業は、平成12年度において基礎整理を実施し、本格的な整理作業は平成21年1月から12月において実施した。以下に工程表を掲載する。

表2 奥の坊遺跡Ⅷ区整理作業工程表

年度	平成20年度				平成21年度							
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
基礎整理												
実測												
トレイス												
レイアウト												
報告書編集												

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

高松市は香川県のほぼ中央に位置し、瀬戸内海に面している。高松市域の大部分は高松平野によって占められている。平野の境界を画する低位山塊及び屋島、紫雲山等の独立山塊は、侵食の容易な花崗岩層（三豊層群）が風化侵食に抵抗の強い安山岩層に覆われていたことによって侵食開拓から取り残されて形成されたメサまたはピュートと呼ばれるもので、讃岐の象徴的な田園風景の象徴となっている。

高松平野は四国東部側に東西に連なる讃岐山脈に端を発する中小河川により形成された沖積地である。高松平野には、西から本津川、香東川、新川、新川といった河川が瀬戸内海に向けて北流している。本調査区の位置する古高松（高松町・新田町・春日町）地区は、この中の春日川、新川にほど近い地域である。春日・新川の両河川は水量に乏しく、平野中央部を流れる香東川のように大規模な扇状地は形成していない。また、古高松地区的北部は、江戸時代初期の干拓によって陸地化されたものであり、寛永10年（1633）の『讃岐国絵図』によると、その時の海岸線はかなり内陸に入り込んでおり、古高松地盤の北に位置する屋島は島として描かれている。北を屋島に面した海岸（旧地形による）、東を立石山山塊、南を久米山丘陵、西を春日川によって限られた高松平野北東部の一角は、古代・中世を通じて「高松」（讃岐国山郡高松郷）と呼ばれたが、天正16年（1588）の生駒親正による高松城築造以後は、城下町の高松に対して「古高松」と呼称され始めた。江戸時代以前の古高松の地形を推定できる史料として古老の話を元に香西成賀が享保4年（1719）に編纂した『南海通記』がある。その中に天正10年（1582）の堤として「春日ノ里ニ至る、此所ハ屋島山、石清尾山兩受ノ間、入海ニテ山田野小山ノ下マデ瀬サシ来ル、遠干渴ナ春日里ト木太郷ノ間、海ノ中道アツテ通用ス。…」との記述がある。ここでいう小山とは、現在の高松市新田町小山にあるたると考えられ、この小山近辺では海岸線あるいは河口が湾状に入り込んでいたと想定できる。

高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として発掘調査が行われた「奥ノ坊」は高松町の北東端にあり、地形的には旧高松市と旧牟礼町（現高松市牟礼町）にまたがる標高100～200mの山塊の、西側低丘陵地の尾根および谷部に位置する地域である。現在はかなり内陸的な様相を示すが、上記の推定海岸線から考えると海岸から1～1.5kmと非常に近かったと推測される。

第2節 歴史的環境

今回の発掘調査事業地は高松平野の東部にあたり、平野北西部に位置する石清尾山塊とともに遺跡の多い地帯として早くから認識されてきた地域である。

当事業地周辺の遺跡の大部分は弥生時代から古墳時代にかけてのものであるが、旧石器・縄文時代の遺物・遺構も若干知られている。旧石器時代については、本格的な遺構は知られていないが、久米池南遺跡においてナイフ型石器が出土している。縄文時代については、小山・南谷遺跡において落とし穴状の土坑が14基検出されているほか、旧河遁中から縄文土器が出土している。晩期の当事業地においても奥の坊奥池西遺跡において落とし穴と考えられる遺構が検出され、縄文土器が出土しており、小山・南谷遺跡との関連が注目される。

弥生時代前期の遺跡としては、周辺では集落遺跡は現在のところ確認されていない。諏訪神社遺跡において前期後半頃の環濠と考えられる遺構が検出されているにすぎない。環濠内には生活痕跡が確認されておらず、特異な遺構として位置づけられている。中期前半では当事業地で確認された奥の坊遺跡があげられる。南北向の縹斜面に営まれた集落で、数多くの堅穴住居を検出している。また、多量の土器・石器のほか分銅形土製品や擬朝鮮系無文土器等も出土している。また、丘陵部を東に越えた羽間遺跡では細形劍削が出土している。中期後半では久米山東側丘陵に立地する高地性集落の久米山池遺跡がある。高床建物を描いた絵画土器や鉄斧が出土したことでも著名である。後期前半では、現在は消滅してしまったが香川県の弥生時代後期前半の標式土器が出土したことで知られる大空遺跡が当事業地内に所在した。また、当事業地内の奥の坊遺跡前遺跡をはじめ、大空遺跡・南谷遺跡・山・南谷遺跡がある。いずれの遺跡においても製塗土器が多量に出土したことなどが知られている。当事業地西方の小平野にある原遺跡も香川県の弥生時代後期後半の標式土器が出土したことで知られる。また、原中村遺跡では、漆が付着した土器が多い量に出土しており、漆を探していたと考えられている。

古墳時代の集落遺跡は周辺では確認されていない。しかしながら、古墳は多く築造されている。高松平野では積石塚として有名な石清尾山古墳群があるが、当遺跡の所在する平野東部では盛土古墳しか見られない。その中では諏訪神社遺跡で検出された3基の堅穴式石槨がある。また、前期内の高松市茶臼山古墳は全長75mの前方後円墳で、後円部には堅穴式石槨が2箇所設けられており、第1主体からは鍬形石2点、画文帶神鏡1点などが出土している。鍬形石は香川県唯唯一の出土例で、その石槨構造とともに畿内的な特徴を持った古墳との評価を受ける要素のひとつとなっている。中期では屋島の北端に所在する長崎鼻古墳において、阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が出土している。後期では複室構造の小山古墳・天井石が巨大な1石の石材で構築された山下古墳・T字型の石室をもつ瀬戸本石古墳等特異な古墳が多い。中でも香川県で唯一石棚をもち、畿内型の亀甲型陶棺を埋葬主体とし、承盤付銅鏡を副葬する久本古墳の存在は特筆できる。この他、小規模な長尾古墳群・岡山古墳群・岡山小古墳群・漆谷古墳群といった群衆墳も見られる。当事業地においても、奥ノ坊古墳群・大空古墳・金川湖古墳の調査が実施されているが、いずれも損壊が著しく、詳細は不明である。

古代の遺跡では、「日本書紀」にも記載されている古代山城屋嶋城の存在が知られている。近年の調査で城門遺構や石垣が検出された。また新田本村遺跡と小山・南谷遺跡では高松平野の余里地割に先行し、方向の異なる余里地割が発見されている。この先行余里地割が当事業地内の奥の坊現前遺跡及び奥の坊遺跡においても確認されている。同地割の東端であることが判明している。古代寺社としては山下廃寺がある。古式の瓦が採集されているが、発掘調査は行われていないので詳細は不明である。また屋島北端の千間堂において10～11世紀と考えられる礎石建物跡及び集石遺構が検出されており、屋島寺の前身遣構と考えられている。

中世に入ると高松平野でも武士の台頭が目立つ。中央政権との間わりも深く、数多くの戦いが行われている。まず、源氏と平氏が屋島で戦い、那須与一佐藤継信の戦いぶりが『平家物語』に記述され、今日まで伝えられている。南北朝期には讃岐の守護となった高松（舟木）頼重か高松（喜岡）城を本拠としたが、足利方の将細川定禅の攻撃により落城したことが『太平記』に見える。その後も織田期まで周辺は高松氏の勢力圏であったが、高松（喜岡）城は秀吉の四国平定時に落城している。なお、高松（喜岡）城周辺には地頭名・公文といった中世に由来すると考えられる小字名も残っている。中世の遺跡はあまり知られていないが、16世紀から17世紀初頭の溝で区画された屋敷地を検出した川南・西遺跡がある。当事業地内でも中世の遺物は出土するものの、遺構としては奥の坊奥池西遺跡において溝が検出された程度である。

中世までは新田町小山近辺まで海岸線が湾状に入り込んでいたが、近世になると讃岐の領主駿氏のもと、干拓・新田開発が行われるようになった。特に、西鷲八兵衛による干拓によって屋島が陸続きとなった。駿氏転封後に高松藩主となった松平頼重はさらに干拓・新田開発を進めめるが、源平合戦の旧跡が消えかけていることを惜しみ、陸続きとなった部分を掘り直し、干潮時に潮が東西両方向へ引く「相引き」の復旧を行っている。近世の遺跡としては、川南・東遺跡において屋敷地を検出している。当事業地内では奥の坊遺跡において一部近世の屋敷地を検出しているにすぎない。

閑話休題であるが、北方屋島壇ノ浦をめぐる一带に治承・寿永間に戦われた源平合戦に因む史跡（安徳天皇社・菊王丸の墓・佐藤継信の墓など）が残されており、地域の人々の間で伝えられてきた。また、屋島壇ノ浦の入り込んだ部分にある小高い丘の王墓は、景行天皇の皇子・神櫛王の墓として宮内庁の管理となっている。



第2図 周辺遺跡分布図 (S=1/40,000)

1 奥の坊古墳	2 奥ノ坊1号墳	3 奥ノ坊2~4号墳	4 奥の坊奥古墳群	5 奥の坊奥西古墳	6 大穴北古墳
7 金剛所古墳	8 大空古墳	9 スベ古墳	10 大空古墳	11 大空西古墳	12 大根森古墳
13 伊御野	14 隅側城	15 滝生古墳	16 鳥屋寺	17 滝山1~3号墳	18 中軒北古墳
19 指頭城中央西古墳	20 指頭城中央東古墳	21 金刀比羅宮社古墳	22 和上山古墳	23 崩石塚	24 第7谷1~5号墳
25 高原(南向)城跡	26 長尾1~3号墳	27 小山・南行跡	28 新田木材跡	29 川前・南跡	30 川前・西跡
31 小山古墳	32 山下古墳	33 山下寺跡	34 同山1古墳群	35 同山古墳群	36 庫谷古墳群
37 前川跡	38 久木古墳	39 久米地跡	40 久米地跡	41 高松市玉山古墳	42 谷内神社古墳
43 田木神社古墳	44 羽門跡	45 朝中行跡	46 原跡		

第3章 調査の経緯と経過

第1節 調査地の概要と基本層序 (第3~6図)

奥の坊遺跡は東から西に延びる丘陵の南向きの緩斜面に立地しているが、さらに細かく見ると、丘陵から南へ派生する小さな2つの尾根に東西を挟まれた谷状部分が集落域である。Ⅶ区はこの集落域の北端で、最高所部分に位置する。調査前の現地表面の標高は465~496mである。

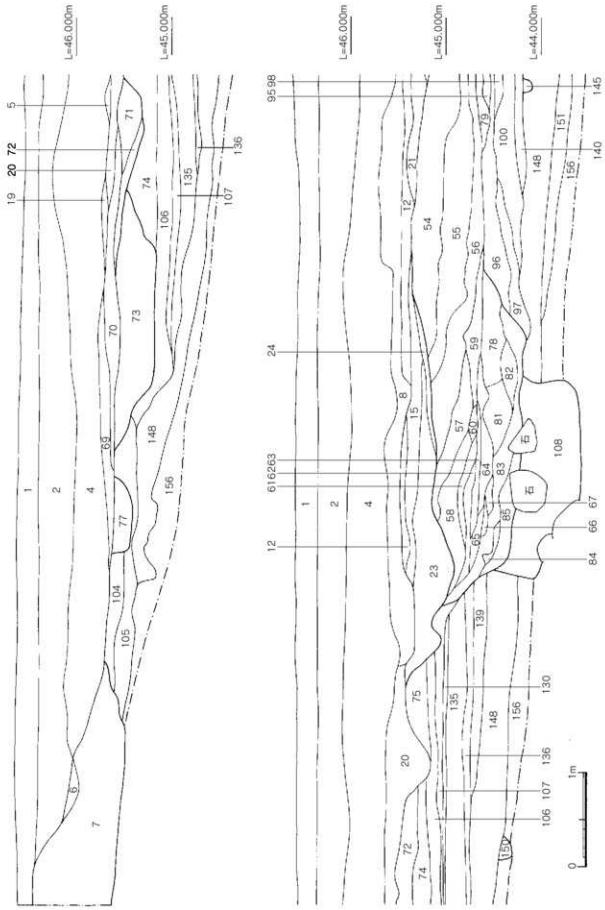
調査に際しては、調査区の南壁において土層観察を行った。現地表面以下20cmは耕作土層(1層)であり、その下層にはいざれも厚さ30~50cmの灰褐色粗砂層(2層)や花崗土(4層)が認められ造成土と考えられる。さらにその下層に灰色から黒色系統の砂混粘質土層(5~73層)が堆積しているが、花崗土も混じっていることから、73層までは造成に伴う堆積、灰褐色砂混粘質土層(74~76層)以下が旧地形に伴うものと考えられる。77~130層までは緑灰・青灰・オリーブ灰色の凹凸の激しく細かい堆積層であり、耕作等に伴うものと考えられる。その下層は131~144層に見られるような黄褐色あるいは褐色の薄い水平堆積が認められ、谷状地形の堆積土を考えられる。その下部に黒褐色砂混粘質土層(148~149層)が堆積しており、遺物を多く含む。148層上面からは145~147層のピット状の掘り込みが認められる。なお、遺物包含層の下部のにいが黄褐色細砂・粗砂層(155)が出土しと考えられる。

遺構面は、遺物包含層上面と地山上面の2面で検出した。しかし、遺物包含層上面で検出した遺構面は遺構密度が低く、周辺の調査結果から判断して近世以降の遺構面と考えられることから調査対象とはせず、地山直上の遺構面1面のみで調査を行った。遺構面は東面が高く、中央部が低くなってしまい、標高は437~480mである。堅穴住居跡7棟、土坑161基、溝6条、方形周溝状遺構1基、ピット多数等を検出した。その出土遺物から概ね弥生時代中期前半の遺構面と考えられる。

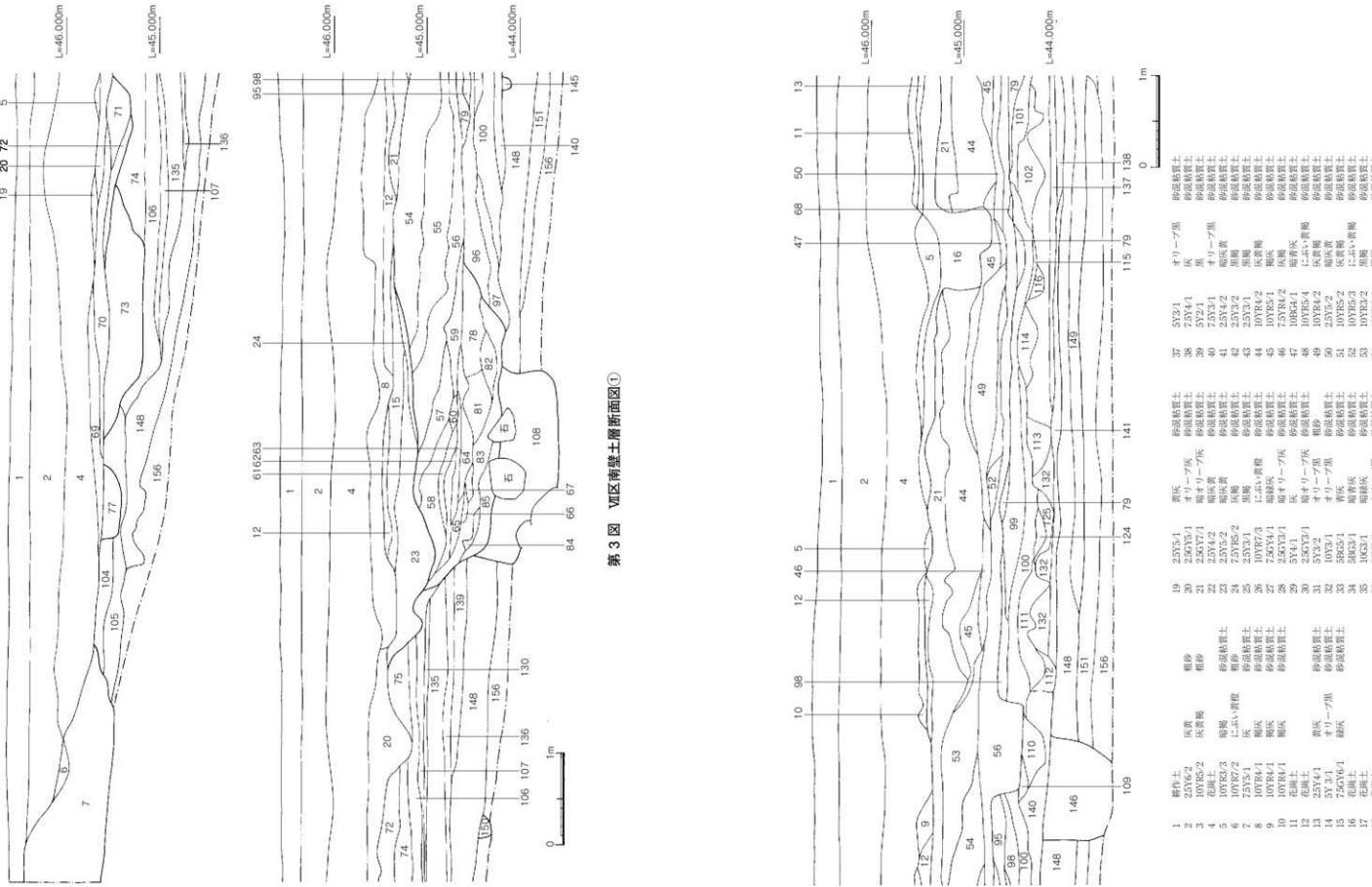
なお、旧地形からの掘り込み(108層)に30~50cmの花崗岩が散在して認められている。調査地周辺は須恵器平瓶を出土したことで知られる奥ノ坊1号墳(旧名:奥ノ坊古墳)が所在したとされ、横穴式石室の石材が発見された可能性も考えられる。

第2節 包含層出土遺物 (第7~9図)

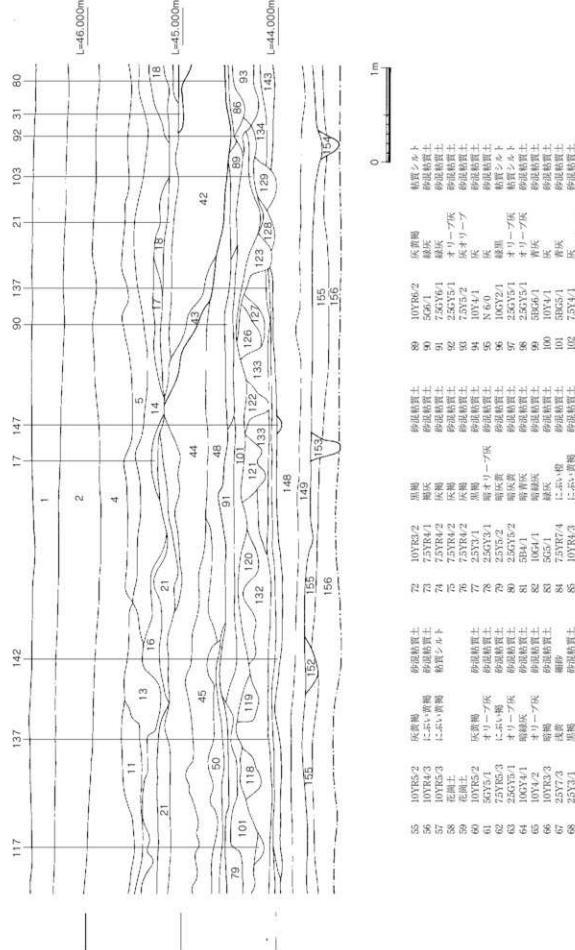
集落域の最上部であることから、他の調査区に比べるとその量は少ないが、包含層から多量の遺物が出土しており、図示可能なものを第7~9図に掲載した。1~44は弥生土器、45は土師器である。1~3は蓋で、1はつまみ部で、内外面ともナデである。2もつまみ部で外面タテハケ、内面板ナデで、つまみ上面から斜め方向に2個1対の紐通し穴と考えられる小円孔が見られる。3は水平に開く口縁部で、内外面ともナデである。4~17は甕で、くの字の口縁もつまみが主体であり、調整もミガキを施すが多い。18は鉢で、内外面ともタテハラミガキがある。19~25は壺の口縁部である。19~20は直立する頭部から外反しながら口縁に至る。21~23は直立する頭部から口縁部が外方へ屈曲する。22は直立する口縁部をもち、外面タテハケ、内面指頭圧が施されている。24は無頭蓋の口縁部を外反させることで広口状にした形態であり、外面タテハケのちヨコハラミガキで、頭部は指頭ナデ、内面指頭圧である。25は無形蓋で、外面ナデ、内面ヨコハラミガキで、外面には櫛描直線文と櫛描波状文が施されている。26は高杯脚部である。27は土器片転用の紡錘車で、円孔は見られない。28はバッヅ形の鉢で、外面は入念なミガキが施されている。29~44は底部で、外面にタテハラミガキを施すが多い。29~30は底面に焼成前の穿孔が見られる。31は底面の内外面から焼成後の穿孔が見られるが、いずれも途中放棄されている。34の内面は煤が付着している。45は土師器の皿である。S1~S9はサヌカイト製の石器である。S1は凸基式である。S2は細身の形態である。S3は先端部と基部を欠いている。S4~S6は凹基式である。S7~S9は調整が少なく、未製品と考えられる。S10は石槍の基礎である。S11~S12はサヌカイト製の石刀丁で、S12は抜りが見られる。S13は安山岩で、背部と刃部をわずかに調整しており、石刀丁と考えられる。S14~S16はサヌカイト製の削器である。S17~S19およびS22~S26は調整痕の見られるサヌカイトの剥片である。S20はサヌカイトの素材剥片である。S21はサヌカイト製の石鏡の一部と考えられる。S27は紀泥片岩製の柱状片刃石斧である。S28は砂岩製の石皿である。S29は砂岩製の砥石で、窟みが見られる。



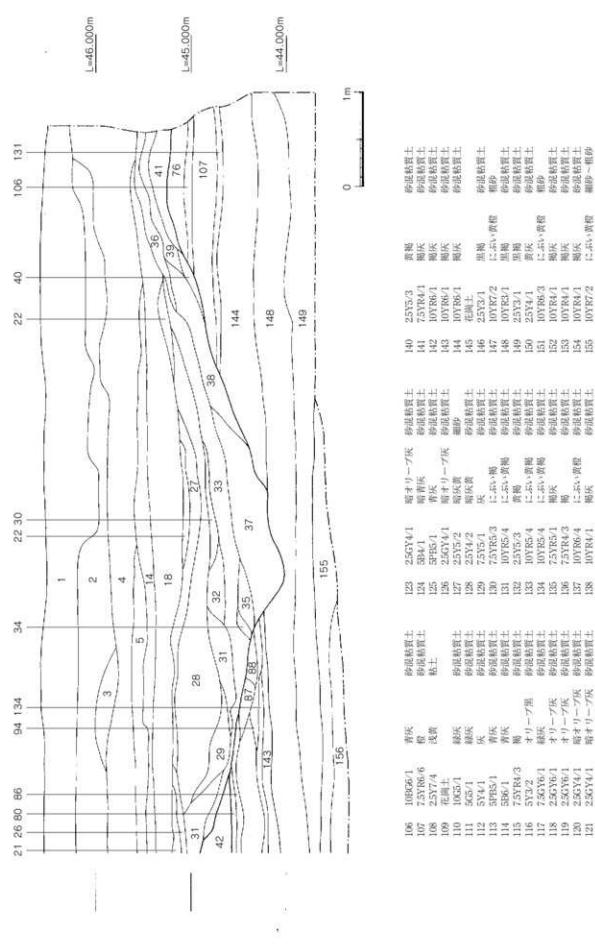
第3図 VII区南壁土層断面図①



第4図 VII区南壁土層断面図②

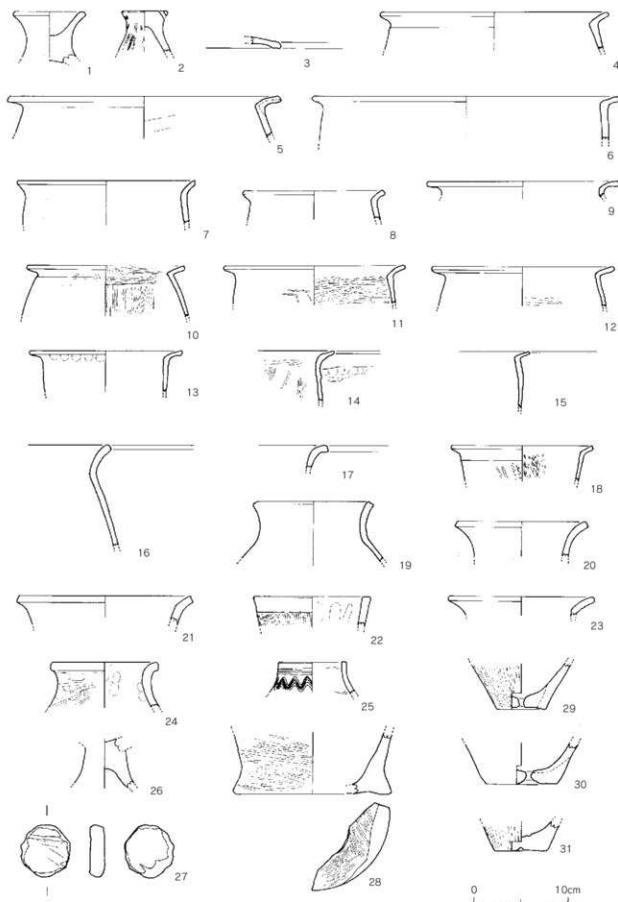


第5図 VII区南壁土層断面図(3)



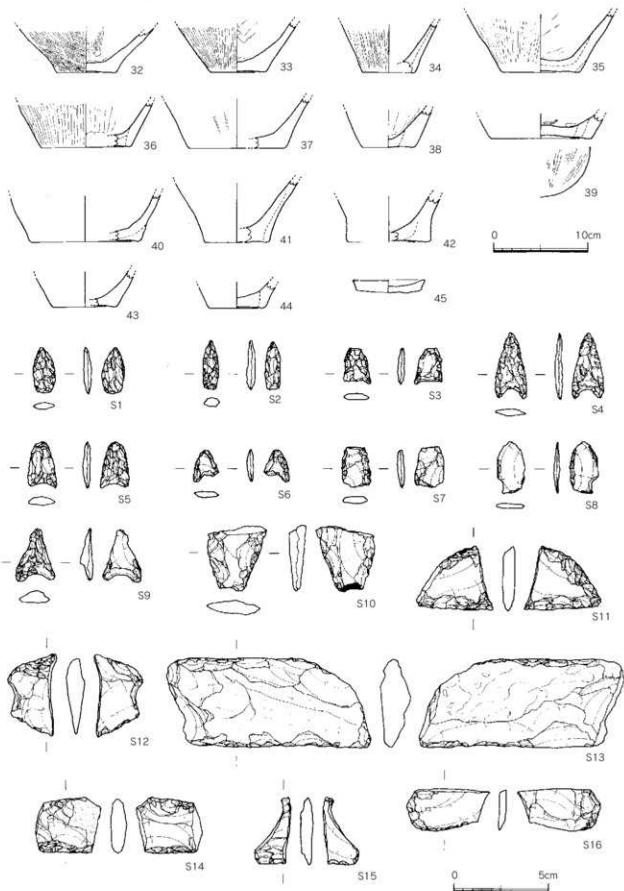
— 11 —

第6図 VII区南壁土層断面図(4)



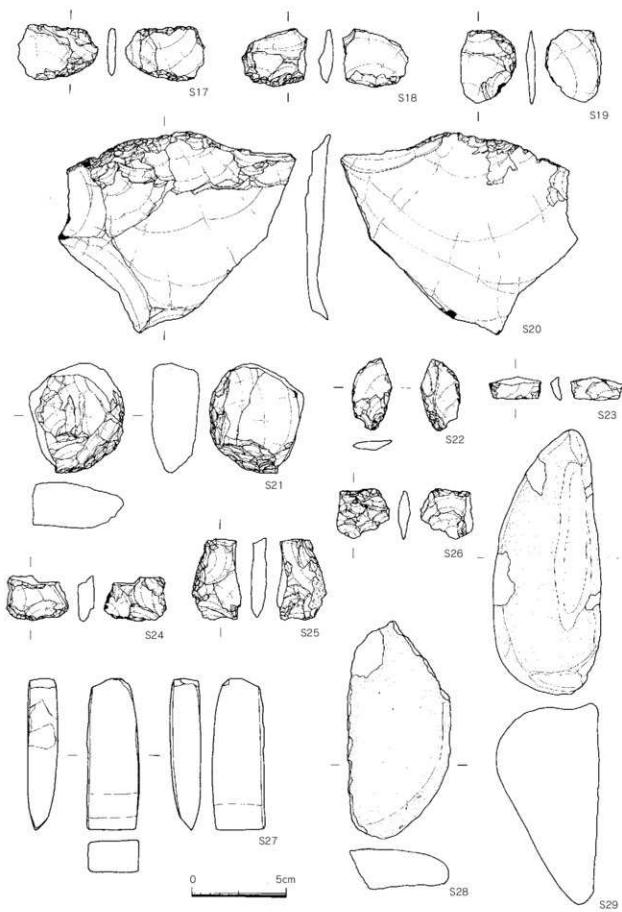
第7図 包含層出土遺物実測図①

- 12 -

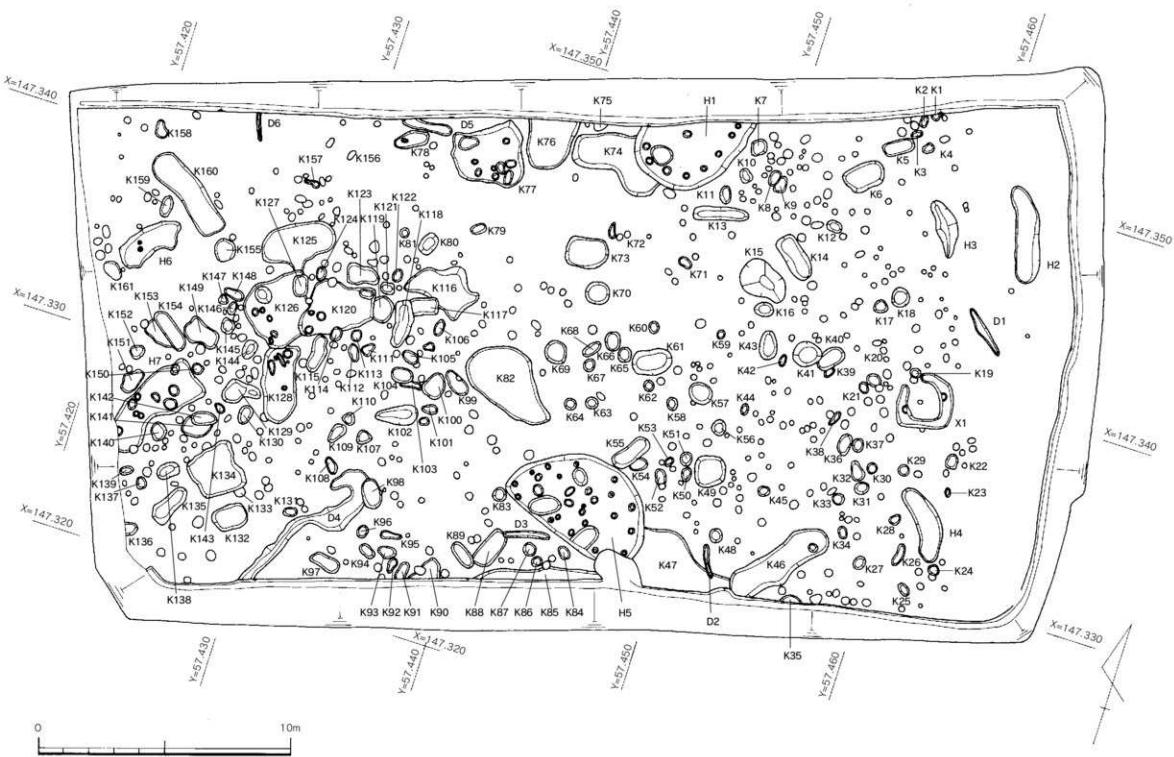


第8図 包含層出土遺物実測図②

- 13 -



第9図 包含層出土遺物実測図③



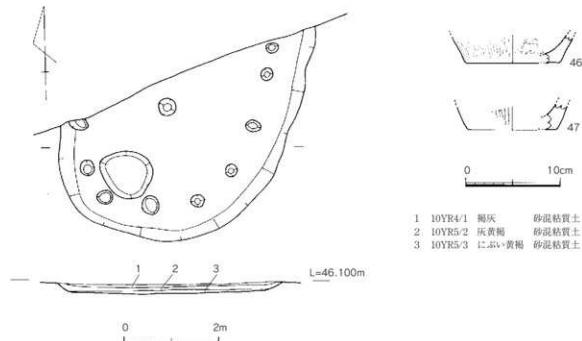
※ 遺構番号表記を省略
(例) SK71001 → K1

第 10 図 VII 区遺構平面図 (S=1/150)

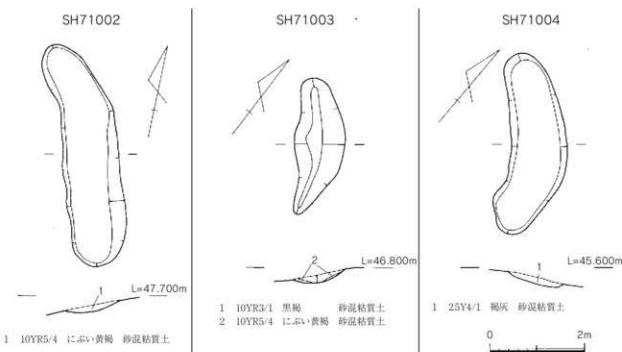
第3節 遺構

SH71001 (第11図)

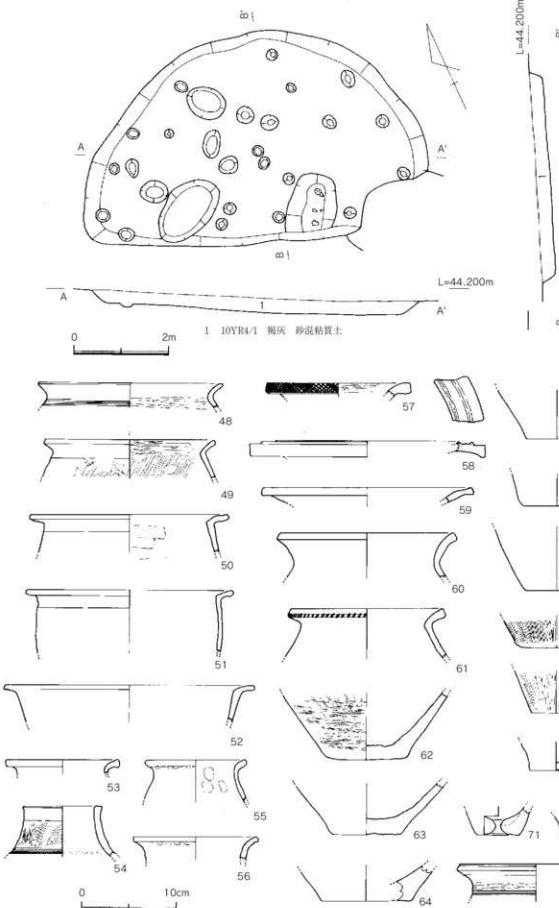
調査区の北部中央で検出した堅穴住跡である。北半が調査区外に延びるが梢円形の平面を呈すると考えられ、長径 580 m 以上、短径 300 m 以上、深さ 20 cm を測る。断面は浅い逆台形を呈し、埋土は 3 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、中層は灰黄褐色砂混粘質土、下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。床面では壁面に沿って柱穴が並ぶとともに中央付近にも 1 基の柱穴が見られる。また、床面の南側には土坑状の掘り込みも認められる。



第11図 SH71001 平・断面図および出土遺物実測図 (S=1/80)



第12図 SH71002 ~ 71004 平・断面図 (S=1/80)

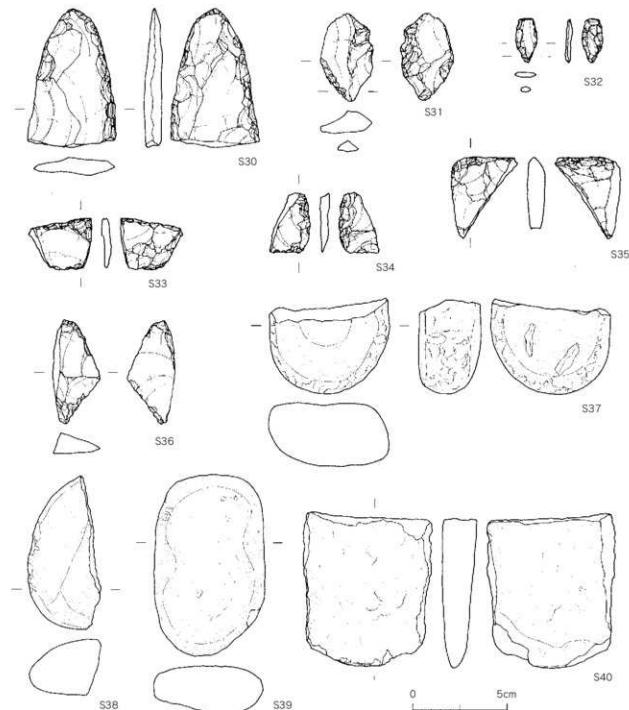


第13図 SH71005平・断面図および出土遺物実測図

出土遺物は46・47の弥生土器の底部である。46は外面タテヘラミガキ、内面ヨコハケのち指頭圧である。47は外面タテヘラミガキ、内面摩滅である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SH71002(第12図)

調査区の北東部で検出した遺構である。平面は溝状を呈し、長辺480m、短辺128m、深さ16cmを測る。断面はレンズ状を呈し、埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺構面の傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が考えられ、大型の遺構であることから堅穴住居跡の一部の可能性が考えられる。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。



第14図 SH71005出土遺物実測図

SH71003 (第12図)

調査区の東部中央で検出した遺構である。平面は溝状を呈し、長辺290m、短辺180m、深さ16cmを測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土、下層にはにい黄褐色砂混粘質土である。傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が想定される。大型の遺構であるので堅穴住居跡の一部の可能性が考えられる。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SH71004 (第12図)

調査区の南東部で検出した遺構である。平面は溝状を呈し、長辺480m、短辺128m、深さ16cmを測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が想定される。大型の遺構であるので堅穴住居跡の一部の可能性が考えられる。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SH71005 (第13・14図)

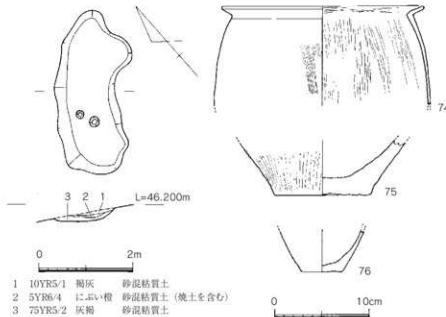
調査区の南部中央で検出した堅穴住居跡である。平面は半円形を呈し、長径736m、短径436m、深さ38cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。床面全域に柱穴が見られるが、壁面に沿って12基の柱穴が並ぶ。また、土坑状の掘り込みも3基見られ、北側の2基は掘り込みが浅いものであるが、南側のものは長径130m、短径100m、深さ25cmを測る。

出土遺物は第13・14図に掲載した。土器はいずれも弥生土器である。48は外面ナデ、内面ヨコヘラミガキで、外面に鶴嘴直線文が施されている。49は外面タテハケ、内面タテのちヨコヘラミガキの指揮頭瓦である。50は外面ナデ、内面板ナデである。54は無跳窓である。外面タテハケ、内面指揮頭瓦で、外面に鶴嘴直線文が施されている。55～61は広口瓦である。57は口縁部外面に斜格子文を施している。58は内面に2重の貼り付け突穴を施している。61は口縁部外面に刻目を施している。62～72は底部である。71は底面に焼成前の穿孔が見られる。73は南側土坑出土の甕である。外面ヨコヘラミガキ、内面ナデで、口縁部外面に沈痕1条と頸部に鶴嘴直線文が施されている。S30はサスカイト製で石庖丁軸用の打製石剣である。S31は石錐未製品の可能性のあるサスカイトの剥片である。S32はサスカイト製の石錐の頭部である。S33～35はサスカイト製の削器である。S36はサスカイトの剥片である。S37は砂岩製の凹石である。S38・S39は砂岩製の磨削石である。S40は安山岩製の扁平片石斧の未製品である。刃部に擦痕が見られる。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SH71006 (第15図)

調査区の北西部で検出した遺構である。平面は溝状を呈し、長辺344m、短辺128m、深さ22cmを測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は3層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、中層は焼土を含むにい橙色砂混粘質土、下層は灰褐色砂混粘質土である。遺構面の傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が考えられ、大型の遺構であることから堅穴住居跡の一部の可能性が考えられる。床面ではピットを2基検出している。

出土遺物は74～76の弥生土器である。74は甕で、外面タテハケ、内面ヘラミガキで



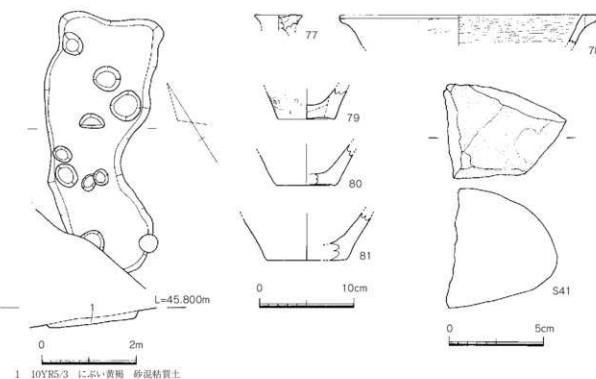
第15図 SH71006 平・断面図および出土遺物実測図

ある。75・76は底部である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SH71007 (第16図)

調査区の西部中央で検出した遺構である。平面は溝状を呈し、長辺564m、短辺190m、深さ16cmを測る。断面は浅い逆台形であり、埋土にはにい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺構面の傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が考えられ、大型の遺構であることから堅穴住居跡の一部の可能性が考えられる。床面ではピットを9基検出している。

出土遺物の77～81は弥生土器である。77は蓋のつまみ部である。78は鉢で、外面板ナデ、内面ヨコヘラミガキである。79～81は底部である。S41は砂岩製の磨石である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第16図 SH71007 平・断面図および出土遺物実測図

SK71001 (第17図)

調査区の北東部で検出した土坑である。北半が調査区外に延びるが、平面は楕円形を呈すると考えられ、長径50cm以上、短径34cm、深さ13cmを測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71002 (第17図)

調査区の北東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径65cm、短径38cm、深さ17cmを測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71003 (第17図)

調査区の北東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径56cm、短径32cm、深さ12cmを測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71004 (第17図)

調査区の北東部で検出した土坑である。平面はやや不整形な楕円形を呈し、長径62cm、短径46cm、深さ6cmを測る。断面はレンズ状を呈する。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71005 (第17図)

調査区の北東部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺 1.58m、短辺 74cm、深さ 11cm を測る。断面は浅い逆台形を呈し、埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71006 (第17図)

調査区の北東部で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺 2.08m、短辺 1.26m、深さ 12cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71007 (第17図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸方形を呈し、長辺 95cm、短辺 75cm、深さ 18cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は 2 層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土、下層はにぶい黄色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71008 (第17図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺 84cm、短径 54cm、深さ 10cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71009 (第17図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。SK71008 に切られているが、平面は隅丸長方形を呈し、長辺 88cm、短辺 64cm、深さ 18cm を測る。断面南側に向かって 2段落ちになっており、埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71010 (第17図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な梢円形を呈し、長辺 74cm、短径 54cm、深さ 25cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は 2 層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土、下層はにぶい黄色砂混粘質土である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71011 (第17図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺 92cm、短径 56cm、深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71012 (第17図)

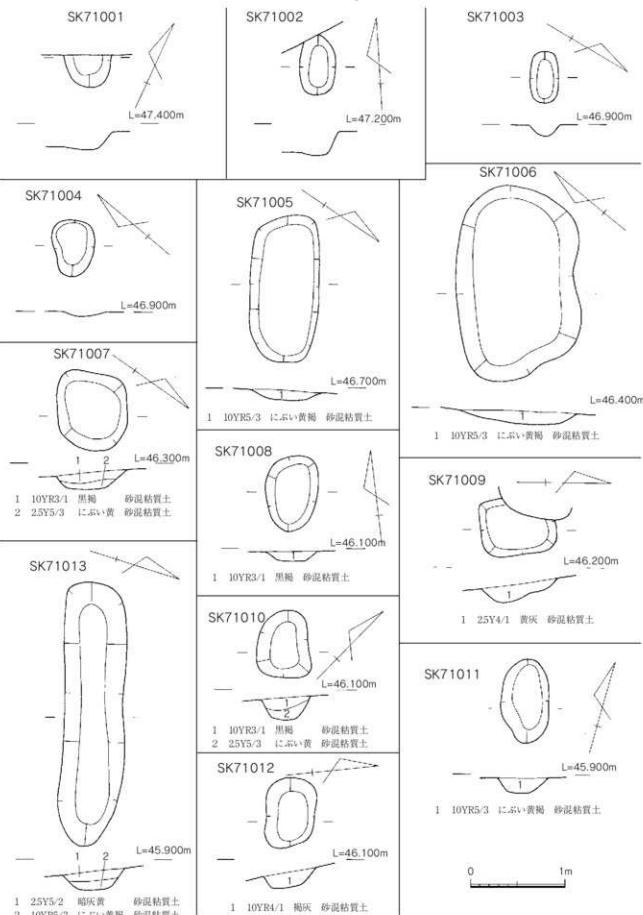
調査区の北東部で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸長方形を呈し、長辺 78cm、短辺 52cm、深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71013 (第17図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長辺 2.82m、短辺 63cm、深さ 20cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は 2 層に分層できる。上層は暗灰黄色砂混粘質土、下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71014 (第18図)

調査区の北東部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺 2.42m、短辺 1.05m、深さ 18cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は 2 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、下層は灰黃褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第17図 VII区検出土坑平・断面図①

SK71015 (第 18・32 図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺 2.49m、短辺 1.38m、深さ 42cm を測る。断面は深い V 字を呈し、埋土は 4 層に分層できる。第 1 層は黒褐色砂混粘質土、第 2 層は黄灰色砂混粘質土、第 3 層は褐灰色砂混粘質土、第 4 層には深い黄色砂混粘質土である。

出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 R2 の弥生土器の底部のみである。外面タテヘラミガキ、内面板ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71016 (第 18 図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺 94cm、短辺 66cm、深さ 22cm を測る。断面は U 字を呈し、埋土は 2 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、下層は灰黃褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71017 (第 18 図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は隅丸三角形を呈し、長辺 70cm、短辺 56cm、深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は灰黃褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71018 (第 18 図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し、長辺 98cm、短辺 88cm、深さ 15cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は灰黃褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71019 (第 18 図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し、長辺 54cm、短辺 48cm、深さ 12cm を測る。断面は U 字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71020 (第 18 図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺 75cm、短辺 60cm、深さ 8cm を測る。断面はレンズ状を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71021 (第 18 図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺 56cm、短辺 45cm、深さ 6cm を測る。断面はレンズ状を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71022 (第 18 図)

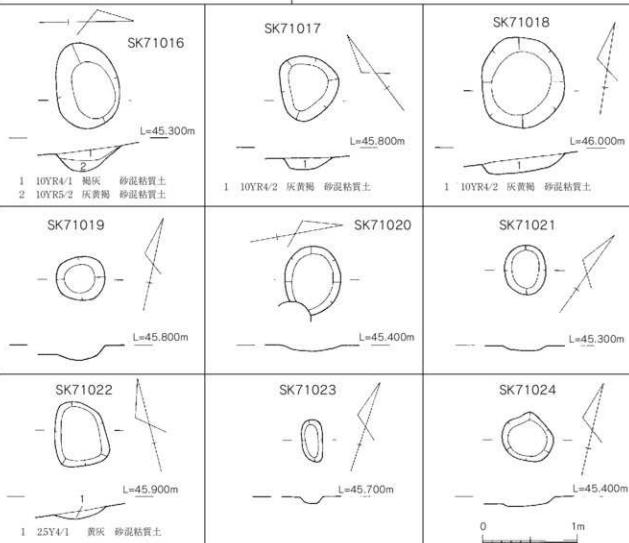
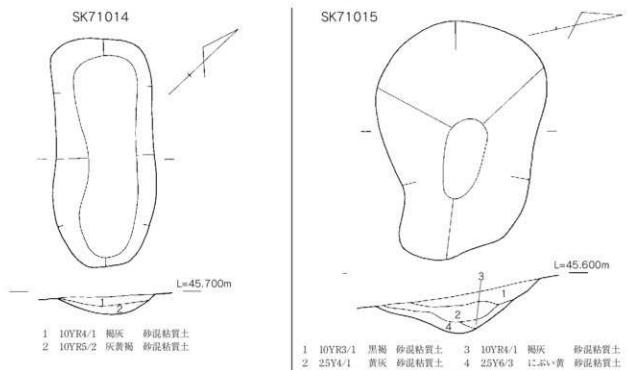
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺 74cm、短辺 54cm、深さ 8cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71023 (第 18 図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は円形を呈し、直径 56cm、深さ 6cm を測る。断面は深い逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71025 (第 19 図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺 47cm、短辺 24cm、深さ 8cm を測る。



第 18 図 VII 区検出土坑平・断面図②

断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71026 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長径 1.18 m、短径 36cm、深さ 10cm を測る。断面は浅いU字を呈し、埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71027 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 70cm、短径 53cm、深さ 12cm を測る。断面は浅いU字を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71028 (第19・32図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 65cm、短径 45cm、深さ 10cm を測る。断面はレンズ状を呈する。

出土遺物のうち図示できたものは第32図83の弥生土器の底部のみである。外面は摩滅により調整不明であるが、内面は指頭ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71029 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は円形を呈し、長径 56cm、短径 52cm、深さ 14cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71030 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 56cm、短径 50cm、深さ 6cm を測る。断面は浅い逆台形である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71031 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 70cm、短径 60cm、深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、下層にはにぶい黄褐色砂混粘質土である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71032 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は滴水形を呈し、長径 1.05 m、短径 45cm、深さ 22cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71033 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は円形を呈し、長径 58cm、短径 56cm、深さ 10cm を測る。断面は浅い逆台形を呈し、埋土は灰黃褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71034 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 62cm、短径 42cm、深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71035 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面は不明であるが、長径 1.20 m 以上、短径 38cm 以上、深さ 10cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71036 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 1.04 m、短径 64cm、深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71037 (第19図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 68cm、短径 54cm、深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈する。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71038 (第19図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長径 84cm、短径 30cm、深さ 10cm を測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71039 (第19図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。SK71040に切られているが、平面は楕円形を呈し、長径 56cm、短径 34cm、深さ 12cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71040 (第19図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。SK71041に切られているが、平面は楕円形を呈し、長径 1.48 m、短径 88cm、深さ 23cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、中層は灰黃褐色砂混粘質土、下層にはにぶい黄褐色砂混粘質土である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71041 (第20図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 1.35 m、短径 1.22 m、深さ 28cm を測る。断面はU字を呈し、埋土は3層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、中層は灰黃褐色砂混粘質土、下層にはにぶい黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71042 (第20図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 62cm、短径 27cm、深さ 8cm を測る。断面は浅いU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71043 (第20図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 1.42 m、短径 77cm、深さ 24cm を測る。断面はU字を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は灰黃褐色砂混粘質土、下層は灰黃色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71044 (第20図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 50cm、短径 38cm、深さ 10cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

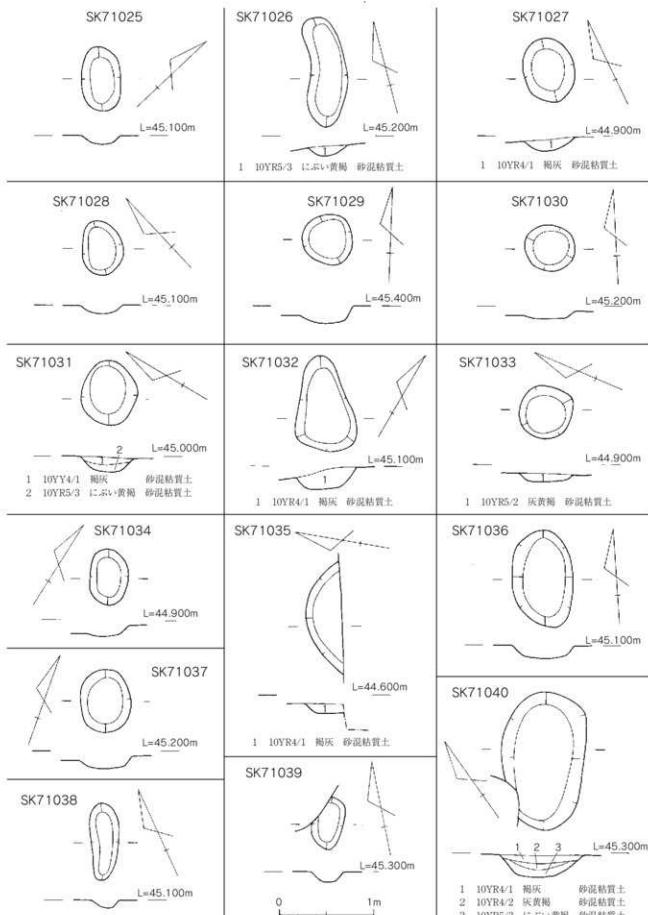
SK71045 (第20図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径 62cm、短径 49cm、深さ 21cm を測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

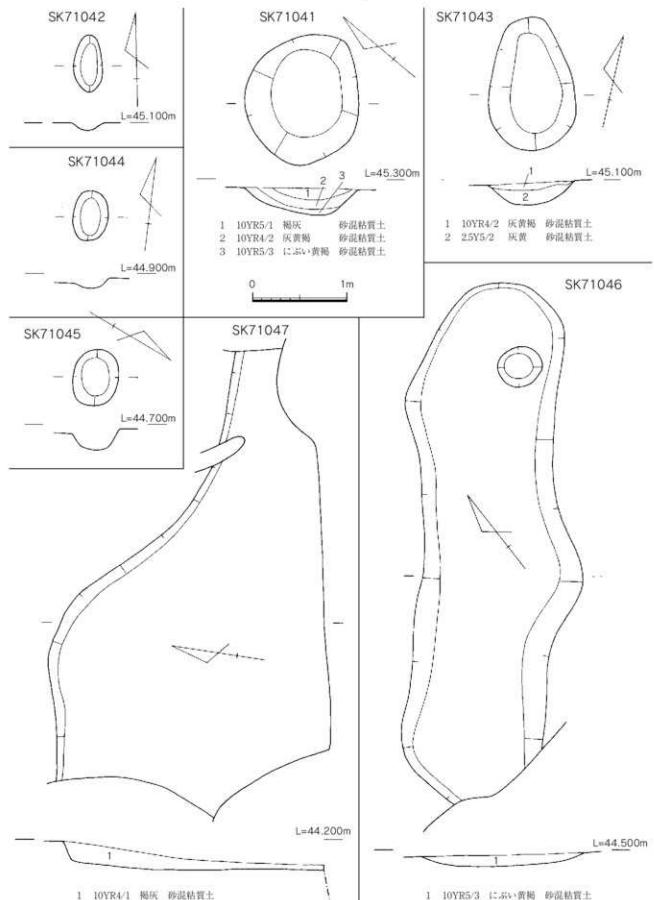
SK71046 (第20・32図)

調査区の南東部で検出した土坑である。南端が調査区外に延びるが、平面は溝状を呈し、長径 5.46 m、短径 1.43 m、深さ 12cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土にはにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第32図に掲載した。84は弥生土器の甕である。外面タテハケ、内面ナ



第19図 VII区検出土坑平・断面図③



第20図 VII区検出土坑平・断面図④

である。85は弥生土器の底部である。内外面とも摩滅が著しい。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71047 (第20図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるとともに、SH71005およびSK71046に切られおり平面は不明であるが、長辺498m以上、短辺130m以上、深さ21cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71048 (第21図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺75cm、短辺64cm、深さ21cmを測る。断面はU字を呈し、埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71049 (第21図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺179m、短辺155m、深さ24cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、下層は灰黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71050 (第21図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺74cm、短辺50cm、深さ13cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71051 (第21図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し、長辺70cm、短辺63cm、深さ17cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71052 (第21図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺54cm、短辺34cm、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71053 (第21図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺54cm、短辺34cm、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71054 (第21図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。SK71055に切られているが、平面は梢円形を呈すると考えられ、長辺92cm以上、短辺64cm、深さ2cmを測る。断面は薄い堆積である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71055 (第21図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺211m、短辺84cm、深さ17cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71056 (第21図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し、長辺78cm、短辺70cm、深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈する。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71057 (第21・32図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺121m、短辺100m、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第32図86の弥生土器の底部のみである。外面タテヘラミガキ、内面ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71058 (第21図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺63cm、短辺54cm、深さ19cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71059 (第21図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺46cm、短辺35cm、深さ11cmを測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71060 (第21図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し、長辺54cm、短辺50cm、深さ10cmを測る。断面はレンズ状を呈する。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71061 (第21図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺198m、短辺122m、深さ27cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71062 (第22図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺56cm、短辺48cm、深さ38cmを測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71063 (第22図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し、長辺62cm、短辺58cm、深さ19cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71064 (第22図)

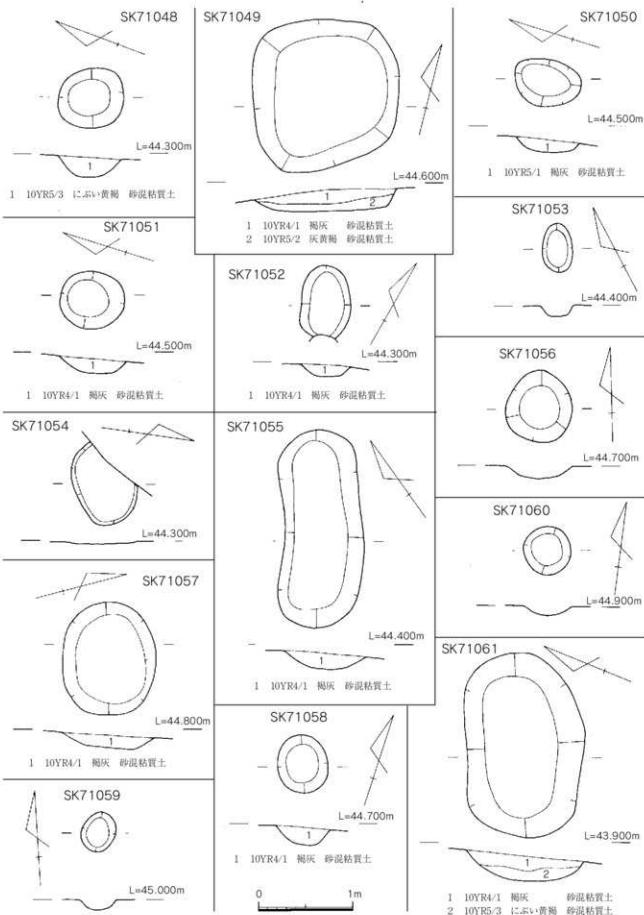
調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺62cm、短辆53cm、深さ16cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71065 (第22図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺74cm、短辆70cm、深さ13cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71066 (第22図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺96cm、短辆72cm、深さ12cmを測る。



第21図 VI区検出土坑平・断面図⑤

断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71067 (第22図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径64cm、短径53cm、深さ16cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71068 (第22図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径104m、短径48cm、深さ9cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は灰黃褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71069 (第22図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径122m、短径108m、深さ9cmを測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71070 (第22図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径122m、短径112m、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71071 (第22図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径68cm、短径40cm、深さ8cmを測る。断面は薄い堆積である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71072 (第22図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長辺82cm、短辺29cm、深さ4cmを測る。断面は薄い堆積である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71073 (第22・32図)

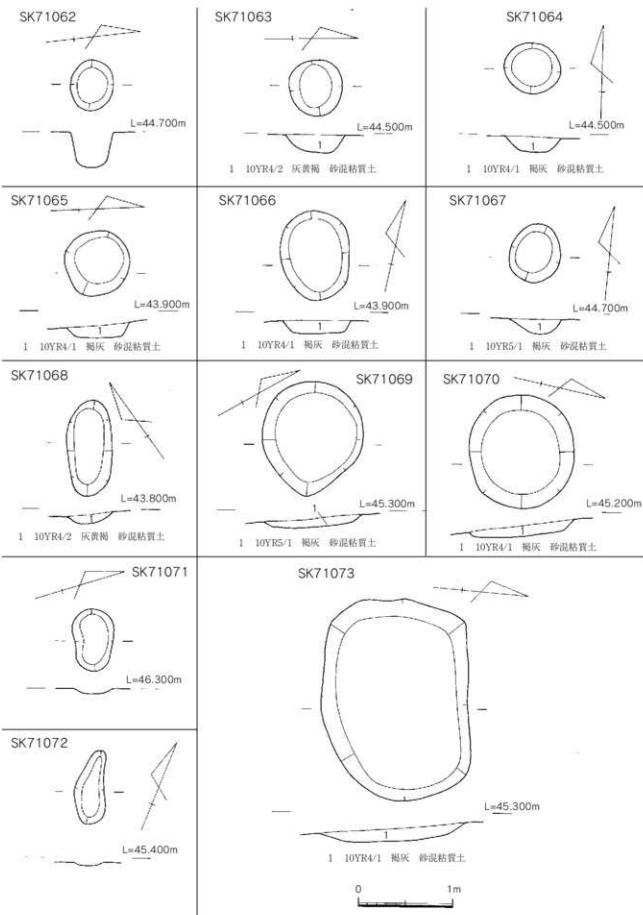
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸長方形を呈し、長辺2.18m、短辺1.54m、深さ13cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第32図に掲載した。87は弥生土器の甕である。内面は摩滅が著しいが、外面部タテハケである。88は弥生土器の甕である。外面ヨコラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71074 (第23図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。東半がSH71001に切られており、平面は不明であるが、長辺4.53m以上、短辺1.82m以上、深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71075 (第23図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。北半が調査区外に延びるため平面は不明であるが、長辺71cm以上、短辺34cm以上、深さ3cmを測る。断面は薄い堆積である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第22図 VI区検出土坑平・断面図⑥

SK71076 (第23図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。北半が調査区外に延びるため平面は不明であるが、長辺255m以上、短辺212m以上、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71077 (第23・32図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な方形を呈し、長辺4.02m、短辺2.42m、深さ18cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。底面にピットが9基認められるが、遺構に伴うものかどうかは不明である。

出土遺物のうち図示できたものは第32図に掲載した。いずれも弥生土器である。89はバケツ型の鉢である。外面タテヘラミガキ、内面は摩滅である。90～93は底部である。90・93は摩滅が著しいが、91は外面指捺ナデ、内面板ナデ、92は外面タテヘラミガキ、内面ヨコヘラミガキのちタテヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71078 (第23図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長辺1.83m、短辺74cm、深さ8cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。底面でピット1基を検出している。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71079 (第23図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺76cm、短辺48cm、深さ8cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黄灰色粗砂の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71080 (第24図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺1.20m、短辺74cm、深さ22cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71081 (第24図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺52cm、短辺45cm、深さ11cmを測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71082 (第24図)

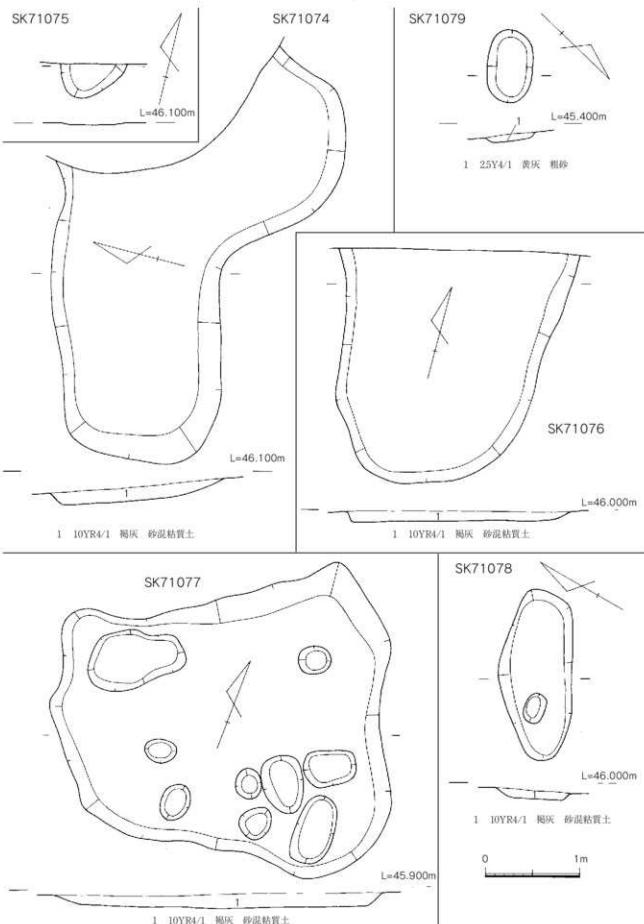
調査区の中央で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺5.00m、短辺2.86m、深さ9cmを測る。断面は薄い堆積であり、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71083 (第24図)

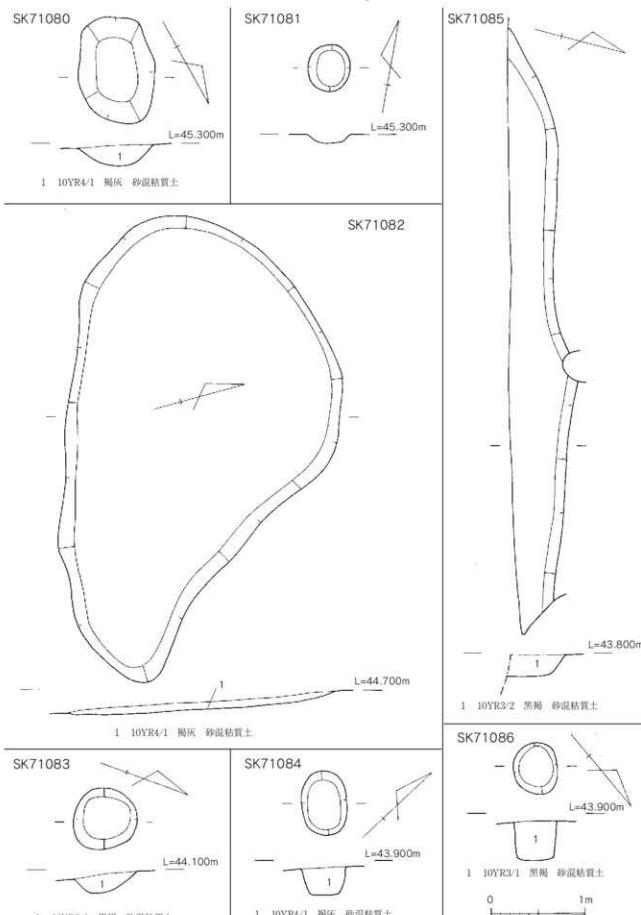
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺71cm、短辺64cm、深さ20cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71084 (第24図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺69cm、短辺48cm、深さ30cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。



第23図 VII区検出土坑平・断面図⑦



第24図 VII区検出土坑平・断面図⑧

SK71085 (第24・33図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面は不明であるが、長辺6.46m以上、短辺45cm以上、深さ24cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第33図S42のサスカイ製の石鎌のみである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71086 (第24図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺56cm、短辺47cm、深さ42cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71087 (第25図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺70cm、短辺60cm、深さ16cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71088 (第25・32・33図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。SK71089およびSD71003に切られているが、平面は隅丸長方形を呈し、長辺208m、短辺96cm、深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第32・33図に掲載した。94は弥生土器の底部で、内外面とも摩滅が著しい。S43はサスカイ製の削器である。両側縁部に切断面を残し、背部と刃部に調整を施している。S44はサスカイ製の四基式の石鎌である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71089 (第25・32図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺144m、短辺68cm、深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は灰黃褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第32図95の弥生土器の甕のみである。如意状の口縁をもち、体部はあまり張らない。外面は摩滅が著しく調整不明であるが、櫛痕直線文を巡らせている。内面はナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71090 (第25図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面は不明であるが、長辺180m以上、短辺65cm以上、深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71091 (第25図)

調査区の南部中央で検出した土坑である。南端が調査区外に延びるが、平面は隅丸長方形を呈し、長辺1.02m以上、短辺48cm、深さ8cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71092 (第25図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は滴水形を呈し、長辺80cm、短辺40cm、深さ8cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71093 (第25図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面はやや不整形な楕円形を呈し、長辺92cm、短辺58cm、深さ9cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の

詳細な時期は不明である。

SK71094 (第25図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺86cm、短辺53cm、深さ14cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71095 (第25図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長辺1.08m、短辺20cm、深さ7cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71096 (第25図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺62cm、短辺49cm、深さ12cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は炭を多く含む黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71097 (第25図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸長方形を呈し、長辺1.55m、短辺62cm、深さ20cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71098 (第25図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺1.47m、短辺96cm、深さ16cmを測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71099 (第25図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺1.40m、短辺76cm、深さ24cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は灰黃褐色砂混粘質土の単層である。底面でピット1基を検出している。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71100 (第26図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸方形を呈し、長辺1.34m、短辺1.06m、深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71101 (第26図)

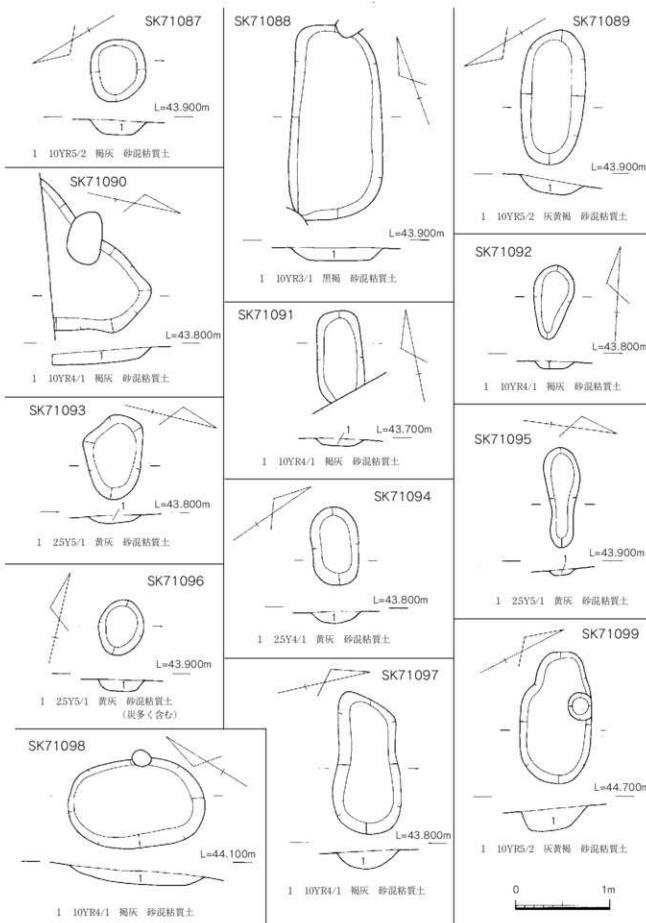
調査区の中央で検出した土坑である。平面は滴水形を呈し、長辺80cm、短辺42cm、深さ18cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71102 (第26図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は滴水形を呈し、長辺206m、短辺86cm、深さ36cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は3層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土、中層は褐灰色砂混粘質土、下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71103 (第26図)

調査区の中央で検出した土坑である。SK71104に切られているが、平面は溝状を呈し、長辺1.10m、短辺



第25図 VI区検出土坑平・断面図⑨

32cm、深さ12cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71104 (第26図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径107m、短径76cm、深さ18cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71105 (第26図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径88cm、短径58cm、深さ18cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。上層・下層とも灰黄褐色砂混粘質土である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71106 (第26図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径85cm、短径46cm、深さ8cmを測る。断面はレンズ形を呈し、埋土は褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71107 (第26図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は隅丸三角形を呈し、長径75cm、短径62cm、深さ11cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71108 (第26図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径90cm、短径43cm、深さ16cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71109 (第26・32図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径1.10m、短径54cm、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。上層は灰褐色粗砂、中層は褐色砂混粘質土、下層はにぶい褐色砂混粘質土である。

出土遺物のうち確認できたものは第32図96の弥生土器の底部のみである。底面には焼成前の穿孔が見られ、内外面ともタテヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71110 (第26図)

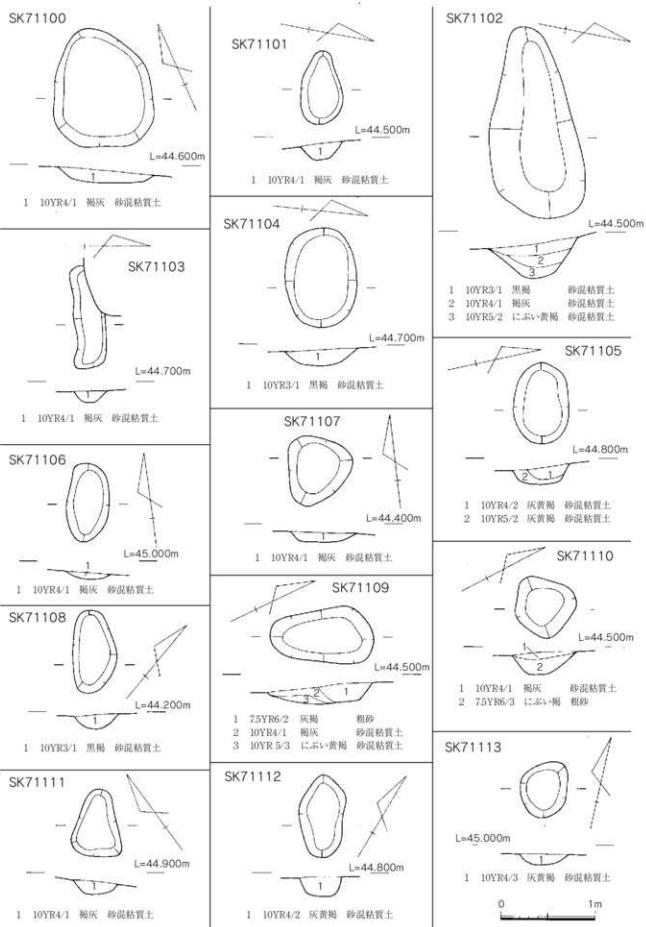
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な楕円形を呈し、長径70cm、短径58cm、深さ24cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は褐色砂混粘質土、下層はにぶい褐色粗砂である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71111 (第26図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸三角形を呈し、長径72cm、短径43cm、深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71112 (第26図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長径90cm、短径43cm、深さ16cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。



第26図 VII区検出土坑平・断面図⑩

SK71113 (第26図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径 64cm、短径 50cm、深さ 12cm を測る。断面はU字を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71114 (第27・32図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径 68cm、短径 54cm、深さ 17cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土はにぶい 黄褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第32図に掲載した。いわゆる弥生土器である。97は細頸壺の口縁部である。外面ナデ、内面指頭ナデで、外面には11本1束の櫛描直線文を2条巡らせている。98・99は甕である。口縁部はくの字に屈曲し、体部は張っている。外面タテハケ、内面タテハケのち指頭圧である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71115 (第27図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長辺 182 m、短辺 68cm、深さ 12cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71116 (第27図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺 384 m、短辺 138 m、深さ 12cm を測る。斜面部であるため南半は削平されている可能性があり、断面はL字を呈する。埋土は4層に分層でき、第1層は褐灰色砂混粘質土、第2層は黒褐色砂混粘質土、第3層は灰黄褐色砂混粘質土、第4層はにぶい 黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71117 (第27・32・33図)

調査区の中央で検出した土坑である。SK71118に切られているが、平面は長方形を呈すると考えられ、長辺 135 m以上、短辺 80cm、深さ 22cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は遺構の西端で集中的に出土した。

出土遺物のうち図示できたものは第32・33図に掲載した。100は弥生土器の底部である。外面指頭圧のちタテヘラミガキ、内面指頭圧である。S45はサヌカイト製の石庖丁である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71118 (第27図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長辺 240 m、短辺 82cm、深さ 27cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71119 (第27図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。SK71120に切られているが、平面は梢円形を呈すると考えられ、長辺 131 m、短辺 98cm 以上、深さ 12cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71120 (第28・32図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺 322 m、短辺 208 m、深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。底面でピットを4基検出しているが、遺構に伴うものかどうかは不明である。

出土遺物のうち図示できたものは第32図 101の弥生土器の底部のみである。外面タテヘラミガキ、内面ヨコヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71121 (第 27・32 図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺 72cm、短辺 55cm、深さ 30cm を測る。断面は U 字を呈し、埋土は 2 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、下層はにぶい黄橙色粗砂である。

出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 102 の弥生土器の底部のみである。外面は摩滅が著しく調整不明であるが、底面にはタミガキが施されている。内面はタテヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71122 (第 27 図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺 66cm、短径 48cm、深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71123 (第 27・33 図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺 1.68m、短辺 80cm、深さ 14cm を測る。断面は U 字を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第 33 図 S46 のサスカイト製の削器のみである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71124 (第 28 図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺 66cm、短径 48cm、深さ 2cm を測る。断面は薄い堆積である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71125 (第 28・32 図)

調査区の西北部で検出した土坑である。SK71126 に切られているが、平面は梢円形に一部突出部が付く不整形で、長辺 37.5m、短辺 1.68m、深さ 15cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 103 の弥生土器の底部のみである。内外面ともナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71126 (第 29・32 図)

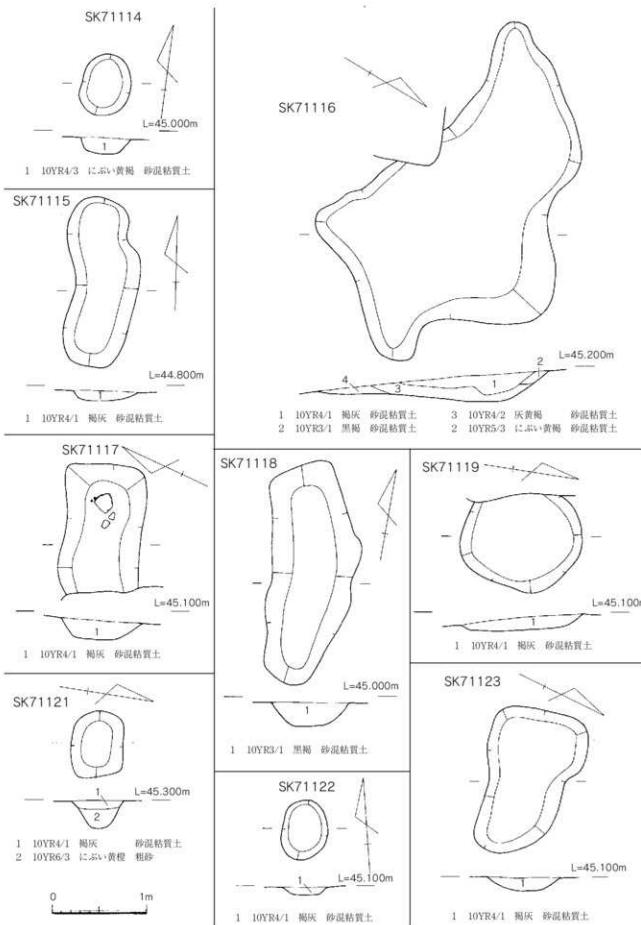
調査区の西北部で検出した土坑である。SK71120 や SK71127 に切られており、平面は不明であるが、長辺 40.5m 以上、短辺 2.22m 以上、深さ 14cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第 32 図に掲載した。いずれも弥生土器である。104 は細頭壺である。外面タテハケ、内面コヘラミガキである。口縁端部に刻目を施している。105 は広口壺である。内外面ともにナデである。106 は壺である。外面ナデ、内面縦方向の板ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71127 (第 28・32・33 図)

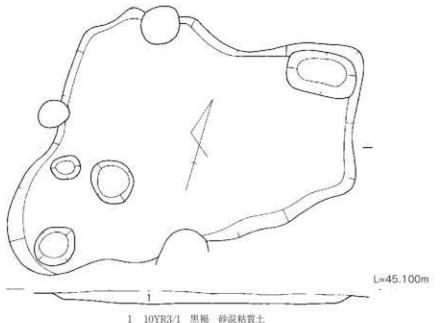
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺 1.10m、短辺 74cm、深さ 15cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は遺構の北半において密集して出土した。

出土遺物のうち図示できたものは第 32・33 図に掲載した。107 は弥生土器の底部である。外面タテヘラミガキのち指頭圧、内面指頭圧である。108 は弥生土器の底部である。外面部ナデ、内面ナデである。109 は弥生土器の広口壺である。外面部とも摩滅が著しく調整不明である。110 は弥生土器の壺である。外面タテハケ、内面ナデである。111 は弥生土器の壺である。外面タテヘラミガキ、内面コヘラミガキのち指頭圧である。S47 はサスカイトの剥片である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第 27 図 VII 区検出土坑平・断面図①

SK71120



SK71128 (第29・32図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。SK71126に切られているが、平面は溝状を呈し、長辺381m以上、短辺165m、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。底面でピットを6基検出しているが、遺構に伴う物かどうかは不明である。

出土遺物のうち図示できたものは第32図に掲載した。112・113は弥生土器の甕である。いずれも口縁部はくの字である。112の外縁は口縁部が指頭圧、体部がタテハケである。内縁は口縁部がヨコハケ、体部はタテハケのちヨコハミガキである。113は外縁タテハケ、内縁ヨコハミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71129 (第28図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺198m、短辺66cm、深さ16cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71130 (第29図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺98cm、短辺58cm、深さ15cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71131 (第29図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺70cm、短辺46cm、深さ11cmを測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71132 (第29・33図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺178m、短辺121m、深さ16cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は遺構の中央において密集して出土した。

出土遺物のうち図示できたものは第33図に掲載した。114・115は弥生土器の甕である。内外面とも摩滅が著しく調整不明である。S48は安山岩製の柱状片刃石斧の未製品である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71133 (第30図)

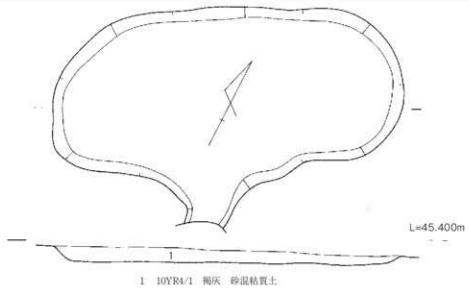
調査区の南西部で検出した土坑である。SK71134に切られているが、平面は楕円形を呈すると考えられ、長辺50cm以上、短辺50cm、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71134 (第29・33図)

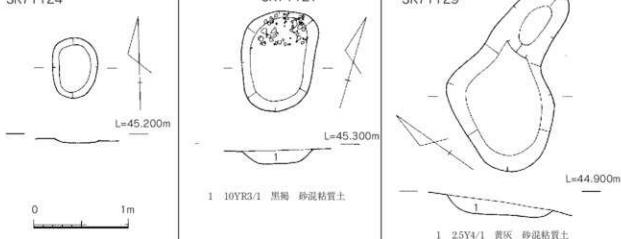
調査区のやや不整形な隅丸長方形を呈し、長辺312m、短辺226m、深さ16cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第33図に掲載した。116は弥生土器の甕である。内外面とも摩滅が著しく調整不明である。117は弥生土器の甕である。外反する口縁部を有し、口縁端部からわずかに下がった位置で貼り付け突部がある。体部上半には斜方向のヘラ描沈線文が施されている。調整は内外面ともヨコハラケグリで、内面には指頭圧が見られる。118は弥生土器の広口甕である。外面タテハケ、内面は頸部がヨコハミガキで、体部は指頭ナデである。体部上半に10本1束の横描直線文と波状文が施されている。119は弥生土器の底部である。外面タテハラミガキ、内面板ナデのち指頭圧である。120は底部である。内外面とも摩滅が著しく調整不明である。弥生時代前期前半の繩文系甕(117)が出土しているが、他の出土遺物は弥生時代中期前半のものであり、繩文系甕は混入品と考えられる。このため、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

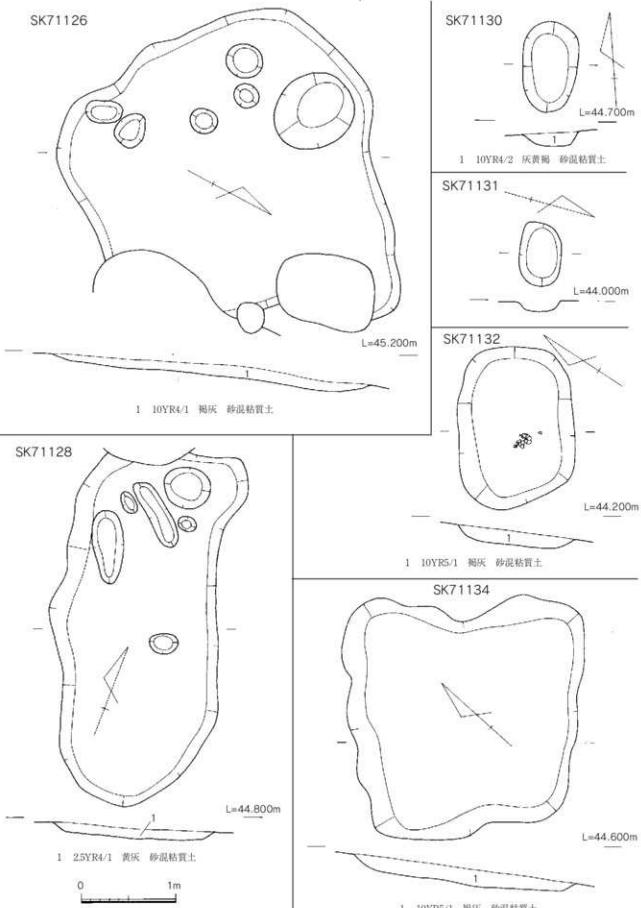
SK71125



SK71124



第28図 VI区検出土坑平・断面図②



第29図 VII区検出土坑平・断面図③

SK71135 (第30図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長辺2.13m以上、短辺80cm、深さ16cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71136 (第30図)

調査区の南西部で検出した土坑である。西半が調査区外に延びるため平面は不明であるが、長辺76cm以上、短辺64cm、深さ12cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71137 (第30図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺64cm、短辺44cm、深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71138 (第30・33図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺1.22m、短辺76cm、深さ28cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土、下層は灰褐色砂混粘質土である。

出土遺物は第33図121の体部片のみである。内面は摩滅が著しいが、外面はヨコヘラミガキが認められる。外面には横向方向のラブ描出線が1条設され、その上部に斜方向の沈線文が施されている。沈線文は右上りと左上がり両方認められることから、交互に施されている可能性が高い。小片であるがSK71134出土の縄文系壺(117)と文様が酷似していることから縄文系壺の体部片と考えられる。弥生時代前期前半の遺物であるが、SK71134同様混入品の可能性もあるため、遺構の時期は不明である。

SK71139 (第30図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺67cm、短辺40cm、深さ6cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71140 (第30図)

調査区の南西部で検出した土坑である。平面はやや不整形な楕円形を呈し、長辺98cm、短辺71cm、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71141 (第30図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。SK71142に切られており、平面は不明であるが、長辺1.70m以上、短辺67cm、深さ15cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は暗灰黄色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71142 (第30図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺1.31m、短辺59cm、深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71143 (第30図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長辺60cm、短辺34cm、深さ8cmを測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71144 (第30図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径 1.02 m、短径 64cm、深さ 34cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71145 (第30図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺 82cm、短辺 68cm、深さ 16cm を測る。断面はU字を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71146 (第30図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径 70cm、短径 42cm、深さ 13cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は炭を多く含む灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71147 (第30図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸三角形を呈し、長辺 49cm、短辺 42cm、深さ 13cm を測る。断面はU字を呈す。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71148 (第30図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径 1.84 m、短辺 88cm、深さ 9cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71149 (第31・33図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺 1.84 m、短辺 130 m、深さ 9cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第33図に掲載した。S49はサヌカイトの剥片である。S50はサヌカイト製の石歯である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71150 (第31図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径 6cm、短径 52cm、深さ 9cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は炭および焼土を多く含む褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71151 (第31図)

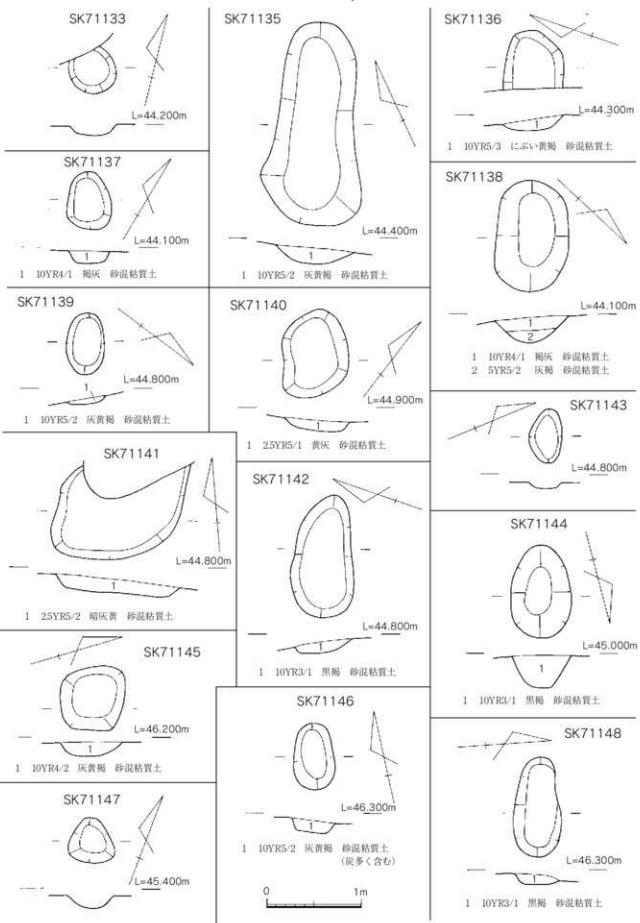
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺 1.39 m、短辺 66cm、深さ 8cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71152 (第31図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長径 96cm、短径 60cm、深さ 11cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71153 (第31図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。SK71154に切られており、平面は不明であるが、長辺 1.74 m 以上、短辺 60cm 以上、深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。



第30図 VII区検出土坑平・断面図②

SK71154 (第31図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し、長辺 220 m、短辺 76 cm、深さ 8 cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71155 (第31図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺 124 m、短辺 104 m、深さ 12 cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71156 (第31図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺 56 cm、短辺 27 cm、深さ 12 cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71157 (第31図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面はL字を呈し、長辺 80 cm、短辺 19 cm、深さ 18 cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71158 (第31図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面は不整形で、長辺 86 cm、短辺 40 cm、深さ 6 cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK71159 (第31図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺 108 m、短辺 54 cm、深さ 16 cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は灰黄褐色砂混粘質土、下層はにぶい黄橙色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71160 (第31・33図)

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し、長辺 4.97 m、短辺 1.29 m、深さ 15 cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。上層にはにぶい黄褐色砂混粘質土、中層は灰黄褐色砂混粘質土、下層はにぶい黄橙色砂混粘質土である。

出土遺物のうち図示できたものは第33図に掲載した。122は弥生土器の広口壺である。内外面ともナデである。123は弥生土器の底部である。外面はタテヘラミガキ、内面はナデである。底面もヘラミガキが施されている。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71161 (第31図)

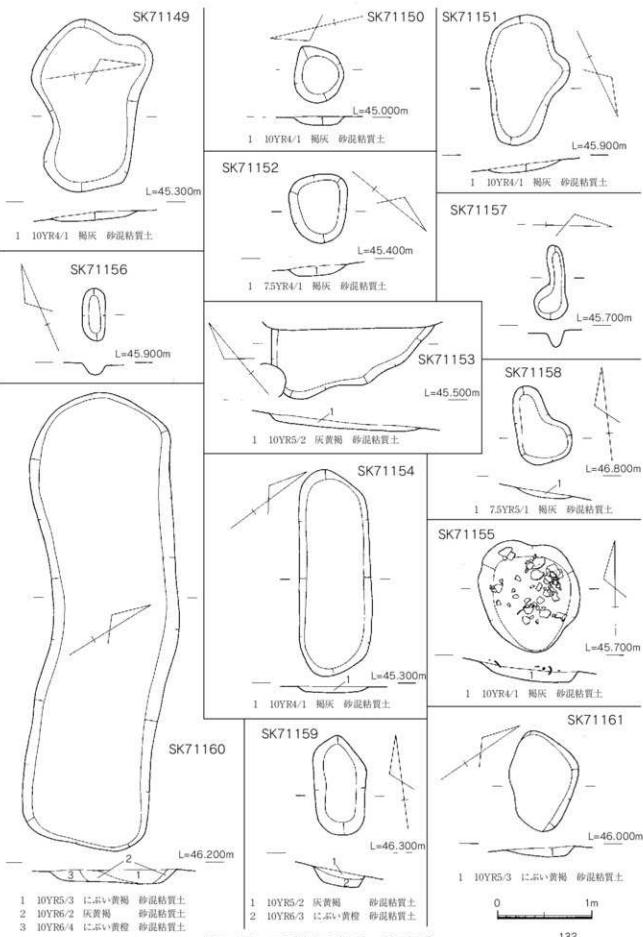
調査区の北西部で検出した土坑である。平面は梢円形を呈し、長辺 1.09 m、短辺 67 cm、深さ 10 cm を測る。断面は逆台形を呈し、埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SD71001 (第34図)

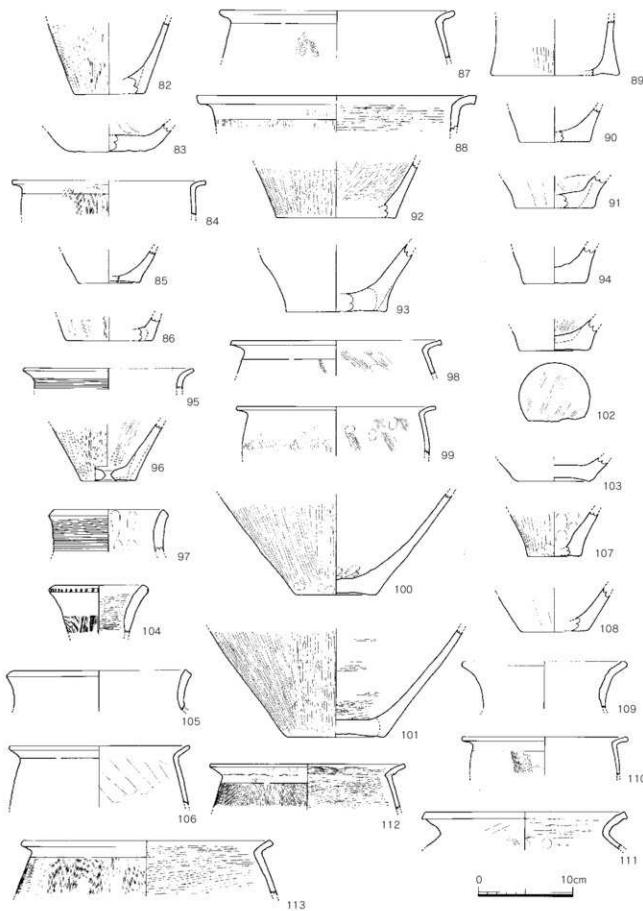
調査区の東部中央で検出した溝である。検出長 264 m、幅 48 cm、深さ 4 cm を測る。断面はレンズ状を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SD71002 (第34図)

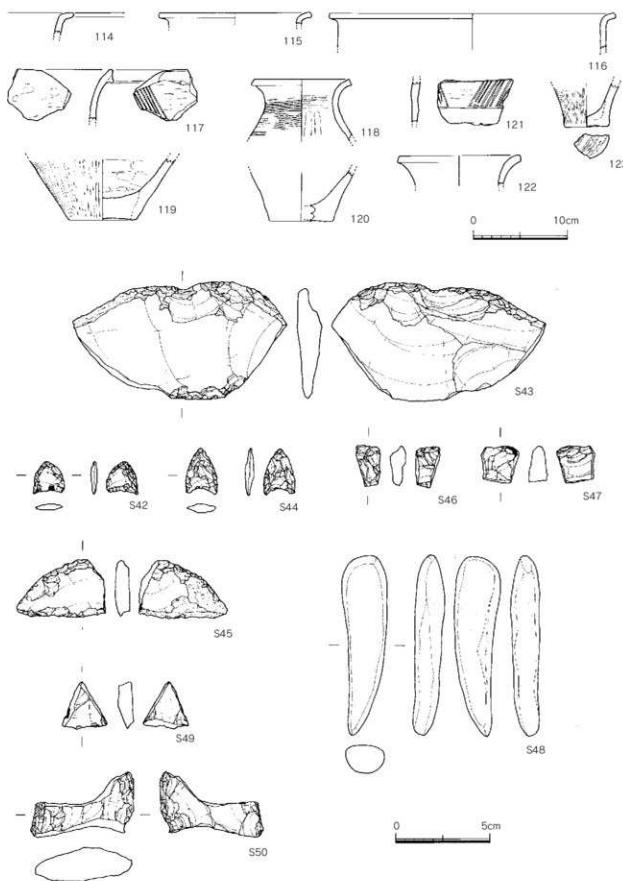
調査区の南部中央で検出した溝である。検出長 170 m、幅 23 cm、深さ 4 cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。



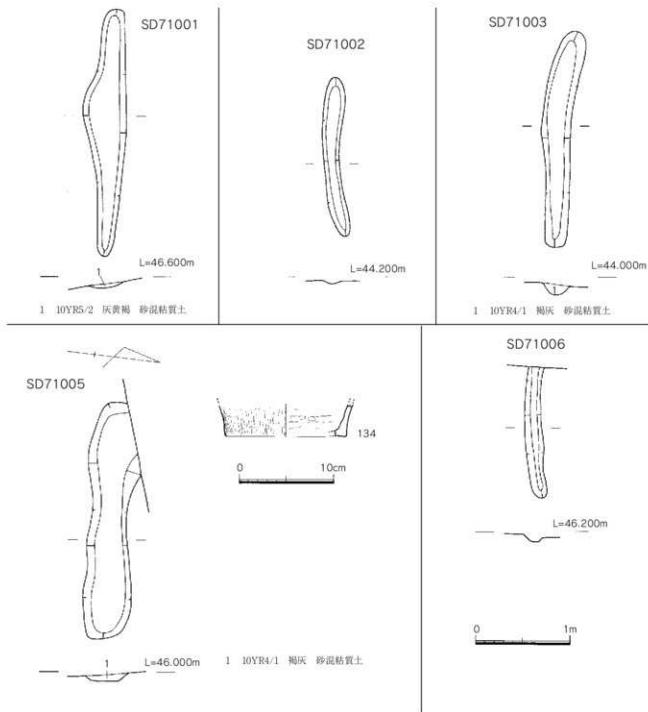
第31図 VI区検出土坑平・断面図(5)



第32図 土坑出土遺物実測図①



第33図 土坑出土遺物実測図②



第34図 SD71001～71003・71005・71006 平・断面図およびSD71005 出土遺物実測図

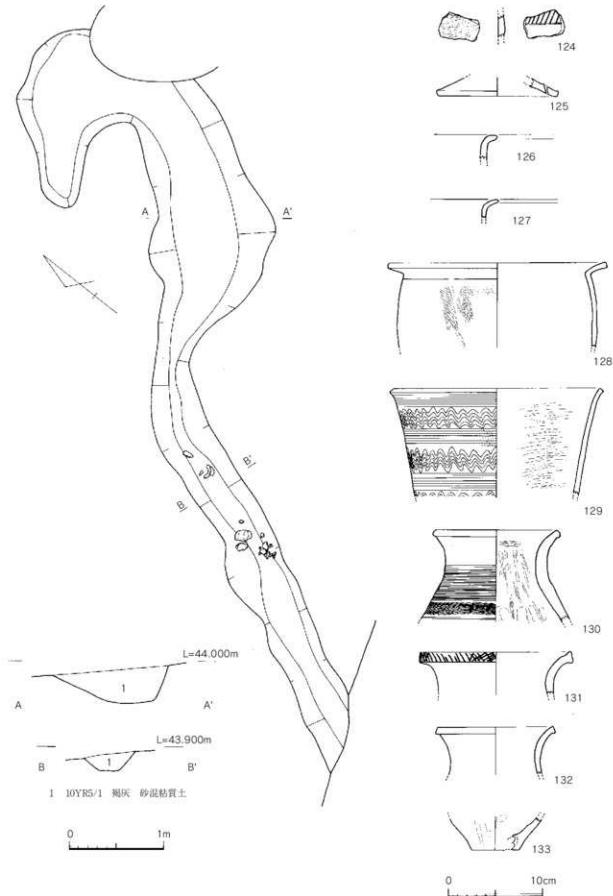
SD71003 (第34図)

調査区の南部中央で検出した溝である。検出長2.32m、幅32cm、深さ12cmを測る。断面はU字を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SD71004 (第35図)

調査区の南西部で検出した溝である。SK71098に切られているが、検出長8.12m、幅135m、深さ36cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第35図に掲載した。124は体部片である。外面は摩滅が著しく調整不明であるが、内面は指頭圧のちヨコヘラミガキである。外面には横方向のヘラ描沈線が1条施され、その上部



第35図 SD71004 平・断面図および出土遺物実測図

に斜方向のス線文が施されている。小片であるがSK71134出土の縄文系壺（117）と文様が酷似していることから縄文系壺の体部片と考えられる。125は弥生土器の蓋である。内外面ともナデである。126～128は弥生土器の蓋である。いずれも摩滅が著しく調整は不明であるが、126の外面はタテハケである。129は弥生土器のバケツ型の鉢である。外面タテハケ、内面ヨコヘラミガキである。外面には8本1束の櫛描直線文と5本1束の櫛描波状文交互に3条巡らしている。130は弥生土器の口縁である。外面ナデ、内面タテヘラミガキのち指頭圧である。外面の頸部から体部上半にかけて9本1束の櫛描直線文と波状文をめぐらせている。131・132は弥生土器の広口壺である。いずれも摩滅が著しく調整は不明であるが、131の口縁端部に斜格子文が施されている。133は弥生土器の底部である。外面タテヘラミガキ、内面はナデと指頭圧である。弥生時代前期前半の縄文系壺が出土しているが、他の出土遺物は弥生時代中期前半のものであり、縄文系壺は混入品と考えられる。このため、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SD71005 (第34図)

調査区の北部中央で検出した溝である。西端が調査区外に延びるが、検出長251m、幅62cm、深さ8cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐色灰色混粘質土の单層である。

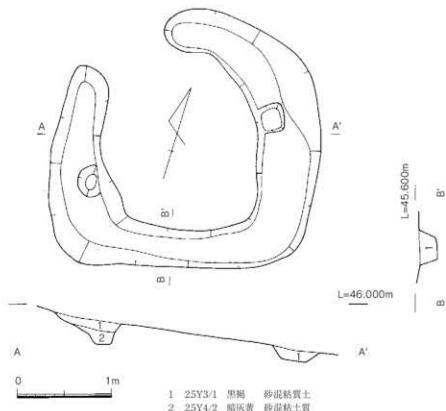
出土遺物は第34図134の弥生土器の底部のみである。外面タテヘラミガキ、内面指頭ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SX71006 (第34図)

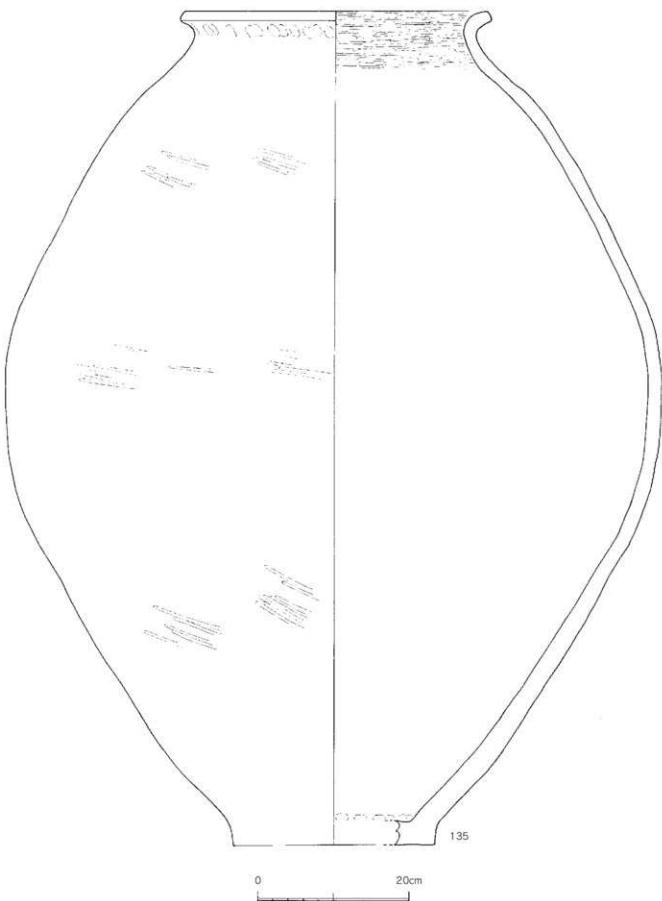
調査区の北西部で検出した溝である。北半が調査区外に延びるが、検出長140m、幅21cm、深さ8cmを測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SX71001 (第36図)

調査区の東部中央で検出した方形周溝状の遺構である。北西の隅が途切れているが、幅40～80cm、深さ10～25cmの溝で形成されている。溝の断面は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土、下層は暗灰黄色砂混粘質土である。溝を含めた平面規模は東西286m、南北276m、溝の内側では、東西165m、南北188mを測る。東辺と西辺の溝の内側にはそれぞれビット状に落ち込む箇所が認められた。東側のビットが隅丸方形を呈し、一辺30cm、深さ10cm、西側のビットが梢円形を呈し、長径35cm、短径30cm、深さ10cmを測る。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。



第36図 SX71001 平・断面図



第37図 III・VI・VII区出土弥生土器実測図 (S=1/5)

第4節 III・VI・VII区出土の土器（第37図）

第37図135はIII・VI・VII区の包含層および遺構埋土中に散在した状態で出土した土器である。特に縦斜面の下方に当たるIII・VI区において多く出土しているが、VII区での出土も認められることから、本来VII区に所在したものが斜面下方へ流れ込んだものと考えられる。弥生土器の大型の壺で、口径40cm、底径26.6cm、器高110.5cmで、器壁も厚く3cmを測る。外面調整は頸部から口縁部にかけて指彫圧で、体部はヨコヘラミガキである。内面調整は頸部から口縁部にかけて入念なヨコヘラミガキで、体部はナデである。散在した状態で出土していることから、用途等は不明である。

第4章 まとめ

奥の坊遺跡は、主に弥生時代中期前半の集落遺跡で、近世までの遺構・遺物を検出している。南向きの縦斜面に営まれた集落のはば全城を発掘調査しており、今回の報告書では、集落の最上部である北端部分しか紹介できていないが、本報告書で取り上げたVII区の変遷を取り上げたい。

弥生時代前期前半

当該期の明確な遺構は無いが、当該期の繩文系壺がSK71134・SK71138・SD71004において1点ずつ出土している。出土地はVII区南西部に偏っている。他の調査区においても同時期の遺構・遺物は認められておらず、その出自ははっきりしない。

弥生時代中期前半

弥生時代前期前半の3点および中世の1点を除く残りの遺物はすべて当該期のものである。このため、遺構についてもほぼすべてが当該期の可能性が高い。明確な堅穴住居跡としてSH71001とSH71005が所在する。多数の土坑も検出しており、集落域であることがうかがえる。試掘調査ではVII区より北側では、遺構が確認されておらず、集落域の北限と考えられる。

古墳時代後期

今回の調査では当該期の遺構・遺物は出土していないが、調査地付近はかつて奥ノ坊1号墳（旧名：奥ノ坊古墳）が所在したとされる。明確な位置は不明であるが、調査区東側尾根において奥ノ坊2～5号墳が新規に発見されていることから、同様の立地条件である調査区西側尾根上に所在した可能性が考えられる。

中世

土師器の皿が1点出土しているにすぎず、明確な遺構も見られない。

参考文献

- 大鷗和則 1999『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 奥の坊遺跡群Ⅰ』
高松市教育委員会
大鷗和則 2000『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 川南・東遺跡』高松市教育委員会
大鷗和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 奥の坊遺跡群Ⅱ』
高松市教育委員会
大鷗和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 奥の坊遺跡群Ⅲ』
高松市教育委員会
大鷗和則 2004『高松市指定史跡 久本古墳』高松市教育委員会
大鷗和則 2006『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 奥の坊遺跡群Ⅳ』
高松市教育委員会
大鷗和則 2006『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 奥の坊遺跡群Ⅴ』
高松市教育委員会
大鷗和則 2007『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 奥の坊遺跡群Ⅵ』
高松市教育委員会
大鷗和則 2009『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第7冊 奥の坊遺跡群Ⅶ』
高松市教育委員会
片桐孝浩 1997『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅰ』香川県教育委員会
片桐孝浩 2006『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅱ』香川県教育委員会
木下晴一 2000『県道高松志度線緊急整備工事および県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
原中村遺跡』香川県教育委員会
歳本晋司・森下友子 1992『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 東山崎・水田遺跡』香川県教育委員会
笠林徳（小竹一郎） 1955『高松市高松町すべり山出土弥生式遺物報告書』
末光甲正 2004『漆谷古墳群』高松市教育委員会
中西克也 2006『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 新田本村遺跡』高松市教育委員会
藤井雄三・山本英之 1989『久米池南遺跡跡発掘調査報告書』高松市教育委員会
藤好史郎 1997『屋鶴城と城山山－古代山城研究の一覧点－』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要V
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
古高松郷土誌編集委員会 1977『古高松郷土誌』
牟礼町史編集委員会 1993『牟礼町史』
山元敏裕・末光甲正 1999『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 川南・西遺跡』高松市教育委員会
山元敏裕 2003『史跡天然記念物屋島－史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅰ－』高松市教育委員会
山元敏裕 2008『屋鶴城跡Ⅱ－史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅱ－』高松市教育委員会

観察表

表3 土器観察表

番号	部類	遺物名	位置(cm)	外 面	内 面	色 国 (上=外側、下=内側)	地土	焼成	法面(cm)				外 面	内 面	(上=外側、下=内側)	地土	焼成	
									口幅	底幅	高さ	口幅						
1	灰土土器	7 台舟型	7.6 (5.6)	ナデ	ナデ	やや赤	土	良	7.5YR4/4 にじむし	7.5YR4/4 にじむし	やや赤	9.7 (3.0)	タヘラミガキ	ヨコハマのち指顔付	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
2	灰土土器	7 台舟型	4.6 (4.4)	タテハリ	板ナデ	やや赤	土	良	7.5YR4/4 にじむし	7.5YR4/4 にじむし	やや赤	9.4 (2.4)	タヘラミガキ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
3	灰土土器	7 台舟型	1.0 (2.0)	ナデ	ナデ	やや赤	土	良	7.5YR4/4 にじむし	7.5YR4/4 にじむし	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	無縫接頭文	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
4	灰土土器	7 台舟型	2.0 (2.0)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/4 にじむし	7.5YR4/4 にじむし	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	タハラミガキのち指顔付	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
5	灰土土器	7 台舟型	2.8 (2.8)	ナデ	ナデ	やや赤	土	良	7.5YR4/4 にじむし	7.5YR4/4 にじむし	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	板ナデ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
6	灰土土器	7 台舟型	3.0 (2.0)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/1 壁面	7.5YR4/1 壁面	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
7	灰土土器	7 台舟型	9.0 (8.0)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/3 にじむし	7.5YR4/3 にじむし	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
8	灰土土器	7 台舟型	15.0 (1.0)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	ヨコハマのち指顔付	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
9	灰土土器	7 台舟型	2.0 (1.7)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/4 にじむし	7.5YR4/4 にじむし	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
10	灰土土器	7 台舟型	16.6 (5.6)	タテハリ	タテハリガキ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	ヨコハマのち指顔付	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
11	灰土土器	7 台舟型	18.0 (4.4)	タテハリ	ヨココラミガキ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
12	灰土土器	7 台舟型	19.2 (4.2)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/1 壁面	7.5YR4/1 壁面	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
13	灰土土器	7 台舟型	15.8 (4.4)	南窓庄	ナデ	やや赤	土	良	7.5YR4/3 にじむし	7.5YR4/3 にじむし	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
14	灰土土器	7 台舟型	15.8 (5.4)	ヨココラミガキのち指顔付	ナデ	タテハリガキ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村
15	灰土土器	7 台舟型	16.0 (6.3)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/4 にじむし	7.5YR4/4 にじむし	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
16	灰土土器	7 台舟型	16.6 (10.6)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
17	灰土土器	7 台舟型	17.0 (7.6)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
18	灰土土器	7 台舟型	14.8 (2.6)	タテハリ	ヨココラミガキ	やや赤	土	良	7.5YR4/1 壁面	7.5YR4/1 壁面	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
19	灰土土器	7 台舟型	11.8 (4.6)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
20	灰土土器	7 台舟型	13.4 (3.6)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/2 反模様	7.5YR4/2 反模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
21	灰土土器	7 台舟型	18.8 (3.6)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
22	灰土土器	7 台舟型	12.4 (3.2)	タテハリ	稚窓庄	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
23	灰土土器	7 台舟型	15.2 (2.6)	コヨテ	コヨテ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
24	灰土土器	7 台舟型	11.0 (1.0)	タテハリ	タテハリガキのち指顔付	ナデ	タテハリ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	ナデ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
25	灰土土器	7 台舟型	7.0 (1.0)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
26	灰土土器	7 台舟型	13.4 (3.6)	ナデ	マツメ	やや赤	土	良	7.5YR4/2 反模様	7.5YR4/2 反模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
27	灰土土器	7 台舟型	9.8 (5.8)	ナデ	マツメ	板ナデ	土	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
28	灰土土器	7 台舟型	16.5 (8.6)	ナデ	マツメ	ヨコヘラミガキ	マツメ	良	7.5YR4/4 にじむし	7.5YR4/4 にじむし	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
29	灰土土器	7 台舟型	5.2 (5.2)	タテハリ	タテハリガキ	マツメ	板ナデ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	ナデ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
30	灰土土器	7 台舟型	11.0 (5.4)	タテハリ	タテハリガキのち指顔付	ナデ	タテハリ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	ナデ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
31	灰土土器	7 台舟型	5.0 (3.0)	ナデ	マツメ	ヨコハマのち指顔付	タテハリ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	ナデ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
32	灰土土器	8 台舟型	6.2 (6.2)	タテハリ	タテハリガキ	マツメ	板ナデ	良	7.5YR4/2 反模様	7.5YR4/2 反模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	ナデ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
33	灰土土器	8 台舟型	5.8 (5.2)	タテハリ	タテハリガキ	マツメ	板ナデ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	ナデ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
34	灰土土器	8 台舟型	5.4 (5.1)	タテハリ	タテハリガキ	ナデ	タテハリ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	ナデ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
35	灰土土器	8 台舟型	8.0 (8.0)	ナデ	マツメ	ナデ	ナデ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
36	灰土土器	8 台舟型	4.0 (4.0)	タテハリ	タテハリガキ	ナデ	タテハリ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
37	灰土土器	8 台舟型	9.8 (5.8)	ナデ	マツメ	タテハリ	タテハリガキ	良	7.5YR4/1 壁面	7.5YR4/1 壁面	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
38	灰土土器	8 台舟型	11.2 (6.0)	ナデ	マツメ	タテハリ	タテハリガキ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
39	灰土土器	8 台舟型	6.0 (6.0)	ナデ	マツメ	タテハリ	タテハリガキ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
40	灰土土器	8 台舟型	6.0 (6.0)	ナデ	マツメ	タテハリ	タテハリガキ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
41	灰土土器	8 台舟型	7.0 (6.0)	ナデ	マツメ	タテハリ	タテハリガキ	良	7.5YR4/2 反模様	7.5YR4/2 反模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
42	灰土土器	8 台舟型	6.8 (6.0)	ナデ	マツメ	タテハリ	タテハリガキ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
43	灰土土器	8 台舟型	6.6 (6.0)	ナデ	マツメ	タテハリ	タテハリガキ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
44	灰土土器	8 台舟型	5.6 (2.8)	ナデ	マツメ	タテハリ	タテハリガキ	良	7.5YR4/6 明模様	7.5YR4/6 明模様	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	
45	灰土土器	8 台舟型	7.0 (1.4)	回転ナデ	回転ナデ	やや赤	土	良	7.5YR4/4 にじむし	7.5YR4/4 にじむし	やや赤	10.5 (1.0)	タテハリ	マツメ	7.5YR6/6 樹	やや赤	野村	

表4 石器観察表

番号	器種	国版	遺物名	発見箇所(cm)	外 面		内 面		中 間		地 土		備考
					口径	口幅	底幅	底高	(上)表裏/下=内面	(中)表裏/下=外面	(下)表裏/下=外面		
92	実生土器	32	SKT1077	12.4 (8.6)	タテヘラガキ	ヨコからタテヘラガキ	マツリ	マツリ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
93	実生土器	32	SKT1077	10.6 (7.1)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
94	実生土器	32	SKT1088	6.4 (3.8)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
95	実生土器	32	SKT1089	18.0	マツリ	ナデ	マツリ	マツリ	10.95m/6 横	やや厚	2mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
96	実生土器	32	SKT1108	6.0 (4.6)	横掛縫文	横掛縫文	タテヘラガキ	タテヘラガキ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
97	実生土器	32	SKT1114	11.8 (3.7)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
98	実生土器	32	SKT1114	22.2 (3.7)	タテハイク	タテハイクのち指鍵	タテハイク	タテハイク	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
99	実生土器	32	SKT1114	5.6 (3.6)	タテハイク	タテハイク	タテハイク	タテハイク	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
100	実生土器	32	SKT1117	8.4 (10.4)	有縫縫のちタテヘラガキ	指鍵	指鍵	指鍵	2.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
101	実生土器	32	SKT1126	10.0 (11.4)	タテヘラガキ	ヨコヘラガキ	タテヘラガキ	タテヘラガキ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
102	実生土器	32	SKT1121	7.4 (3.2)	ヘラガキ	ヘラガキ	ヘラガキ	ヘラガキ	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
103	実生土器	32	SKT1125	8.4 (2.6)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	7.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
104	実生土器	32	SKT1126	9.2 (5.7)	タテハイク	ヨコヘラガキ	ヨコヘラガキ	ヨコヘラガキ	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
105	実生土器	32	SKT1126	18.0 (4.3)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	7.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
106	実生土器	32	SKT1126	19.0 (4.8)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
107	実生土器	32	SKT1127	5.6 (4.6)	タテヘラガキのち指鍵	指鍵	指鍵	指鍵	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
108	実生土器	32	SKT1127	6.8 (4.7)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
109	実生土器	32	SKT1127	17.0 (5.6)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
110	実生土器	32	SKT1127	26.0 (4.6)	タテハイク	タテハイク	タテハイク	タテハイク	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
111	実生土器	32	SKT1127	21.0 (4.6)	タテヘラガキ	ヨコヘラガキのち指鍵	ヨコヘラガキのち指鍵	ヨコヘラガキのち指鍵	2.579m/2 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
112	実生土器	32	SKT1128	20.4 (4.8)	タテハイク	ヨコハイク	ヨコハイク	ヨコハイク	2.579m/3 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
113	実生土器	32	SKT1128	26.0 (4.6)	タテハイク	ヨコヨカガキ	ヨコヨカガキ	ヨコヨカガキ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
114	実生土器	33	SKT1132	2.6 (1.0)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
115	実生土器	33	SKT1132	16.0 (1.0)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/4 重	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
116	実生土器	33	SKT1132	30.0 (3.8)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
117	実生土器	33	SKT1134	1.0 (0.6)	タテハイク	ヨコハイク	ヨコハイク	ヨコハイク	7.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
118	実生土器	33	SKT1134	2.6 (0.6)	タテハイク	ヨコハイク	ヨコハイク	ヨコハイク	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
119	実生土器	33	SKT1134	7.0 (1.6)	タテヘラガキ	タテヘラガキ	タテヘラガキ	タテヘラガキ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
120	実生土器	33	SKT1134	6.6 (0.6)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
121	実生土器	33	SKT1138	4.0 (0.6)	ヘラガキ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
122	実生土器	33	SKT1160	12.8 (3.8)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	2.579m/2 黄灰	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
123	実生土器	33	SKT1160	15.6 (4.6)	タテヘラガキ	タテヘラガキ	タテヘラガキ	タテヘラガキ	2.579m/1 重	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
124	実生土器	35	SDT1004	12.4 (1.0)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	2.579m/3 重	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
125	実生土器	35	SDT1004	12.4 (1.0)	内孔	ナデ	ナデ	ナデ	2.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
126	実生土器	35	SDT1004	12.2 (1.0)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	2.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
127	実生土器	35	SDT1004	22.7 (3.8)	タテハイク	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
128	実生土器	35	SDT1004	21.7 (11.4)	タテハイク	ヨコヘラガキ	ヨコヘラガキ	ヨコヘラガキ	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
129	実生土器	35	SDT1004	12.6 (3.8)	ナデ	タテヘラガキのち指鍵	タテヘラガキのち指鍵	タテヘラガキのち指鍵	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
130	実生土器	35	SDT1004	16.2 (4.6)	横掛縫文	横掛縫文	タテヘラガキ	タテヘラガキ	7.579m/3 重	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
131	実生土器	35	SDT1004	20.6 (5.1)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/6 横	細	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
132	実生土器	35	SDT1004	22.7 (3.8)	マツリ	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
133	実生土器	35	SDT1004	22.7 (3.8)	タテハイク	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/3 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
134	実生土器	34	SDT1005	12.4 (3.4)	タテヘラガキ	指鍵ナデ	ナデ	ナデ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	
135	実生土器	34	SDT1005	12.2 (3.1)	横掛縫文	ヨコヘラガキ	ヨコヘラガキ	ナデ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
136	実生土器	34	SDT1005	12.6 (3.0)	タテヘラガキ	ナデ	ナデ	ナデ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
137	実生土器	34	SDT1005	12.6 (3.0)	タテヘラガキ	ナデ	ナデ	ナデ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
138	実生土器	34	SDT1005	12.6 (3.0)	タテハイク	マツリ	マツリ	マツリ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良	
139	実生土器	37	三・西区	40.0 26.6	110.5	南隣庄・ヨコヘラガキ	ヨコヘラガキ	ナデ	7.579m/4 にない複	やや厚	1mm以下の石灰-長石-重石含む	良好	

写 真 図 版



写真1 VI・VII区全景（上側の調査区がVII区）



写真2 調査前状況（北から）



写真3 機械掘削状況（北から）

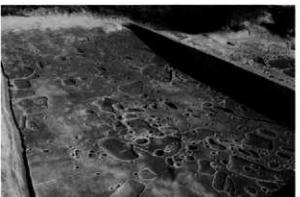


写真4 完掘状況（北西から）



写真5 調査区南壁土層断面（西から）



写真6 包含層掘削風景



写真7 遺構検出作業風景



写真8 実測風景



写真9 SH71001 土層断面（南から）



写真 10 SH71001 完掘状況（北から）



写真 11 SH71002 土層断面（南から）



写真 12 SH71003 完掘状況（南東から）



写真 13 SH71005 土層断面（南東から）



写真 14 SH71005 石針出土状況（南西から）

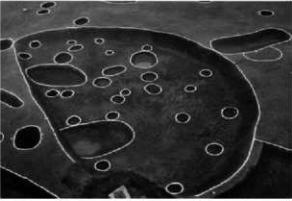


写真 15 SH71005 完掘状況（南から）



写真 16 SH71006 土層断面（北東から）

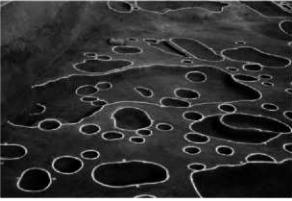


写真 17 SH71007 完掘状況（南東から）

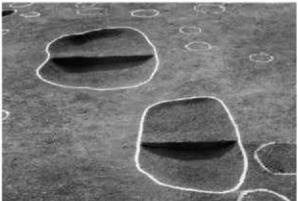


写真 18 SK71005-SK71006 土層断面（北東から）

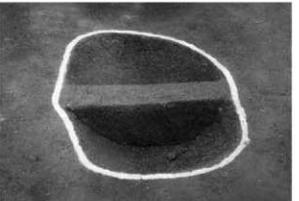


写真 19 SK71011 土層断面（南から）



写真 20 SK71014 土層断面（南東から）

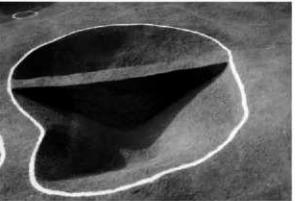


写真 21 SK71015 土層断面（東から）



写真 22 SK71014-SK71015 完掘状況（北東から）

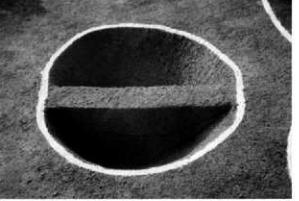


写真 23 SK71016 土層断面（東から）



写真 24 SK71046 土層断面（北から）

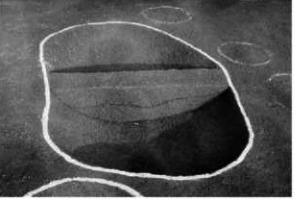


写真 25 SK71061 土層断面（南西から）



写真 26 SK71074 土層断面（西から）



写真 27 SK71076 土層断面（南から）



写真 28 SK71077 土層断面（南から）

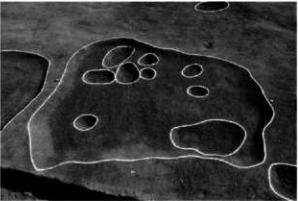


写真 29 SK71077 完掘状況（北から）

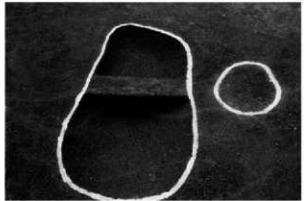


写真 30 SK71097 土層断面（東から）

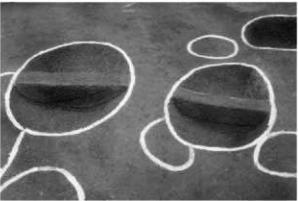


写真 31 SK71104・SK71105 土層断面（東から）

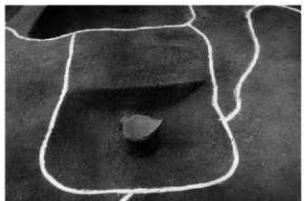


写真 32 SK71117 土層断面（東から）



写真 33 SK71117 完掘状況（東から）

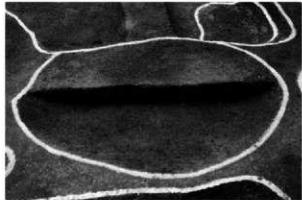


写真 34 SK71119 土層断面（東から）



写真 35 SK71120 土層断面（南から）



写真 36 SK71126 土層断面（西から）

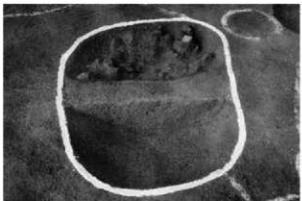


写真 37 SK71127 土層断面（南から）



写真 38 SK71132 土層断面（北東から）



写真 39 SK71134 土層断面（東から）

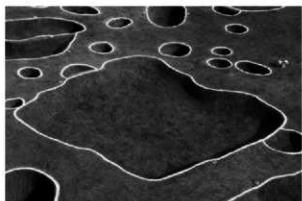


写真 40 SK71134 完掘状況（南から）

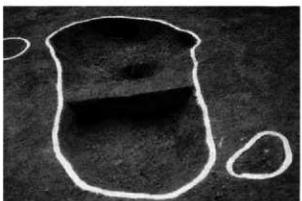


写真 41 SK71135 土層断面（北から）

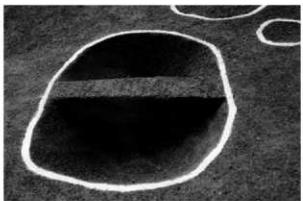


写真 42 SK71138 土層断面（北東から）



写真 43 SK71159 土層断面（南から）

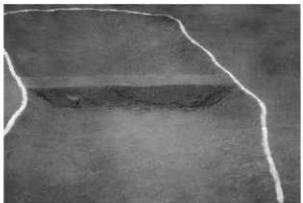


写真 44 SK71160 土層断面（南東から）



写真 45 SD71004 土層断面（北から）



写真 46 SD71004 土器出土状況（東から）



写真 47 SD71004 完掘状況（西から）



写真 48 SX71001 土層断面（南から）



写真 49 SX71001 完掘状況（北西から）

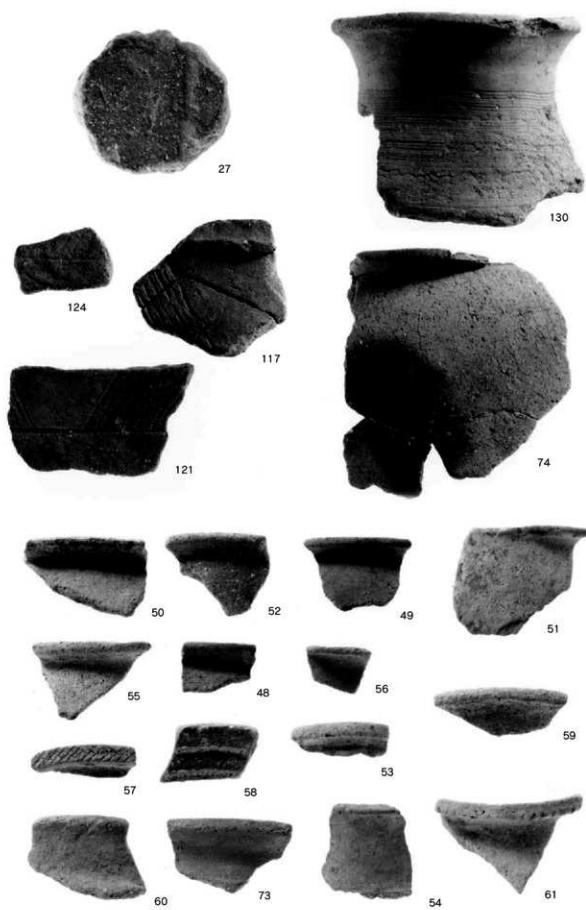


写真 50 VII区出土遺物①

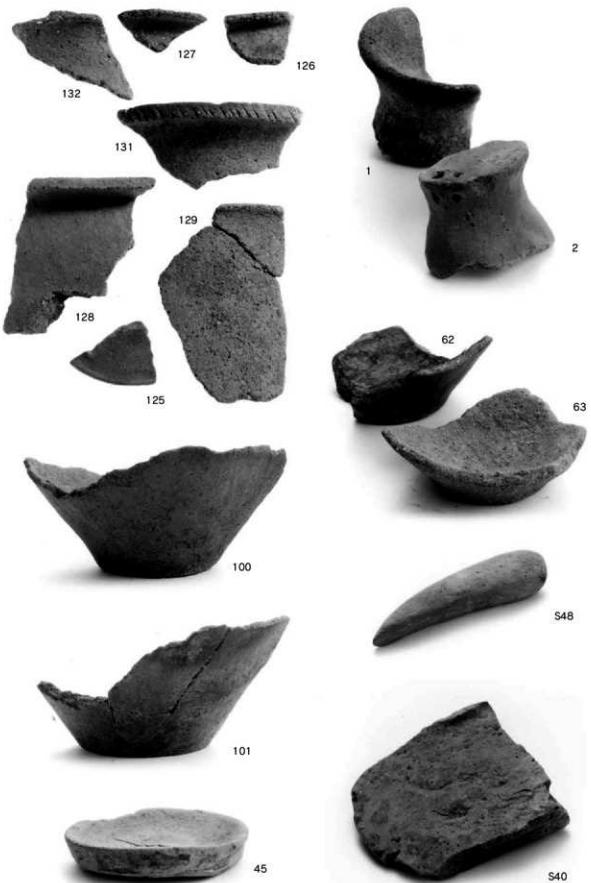


写真 51 VII区出土遺物②

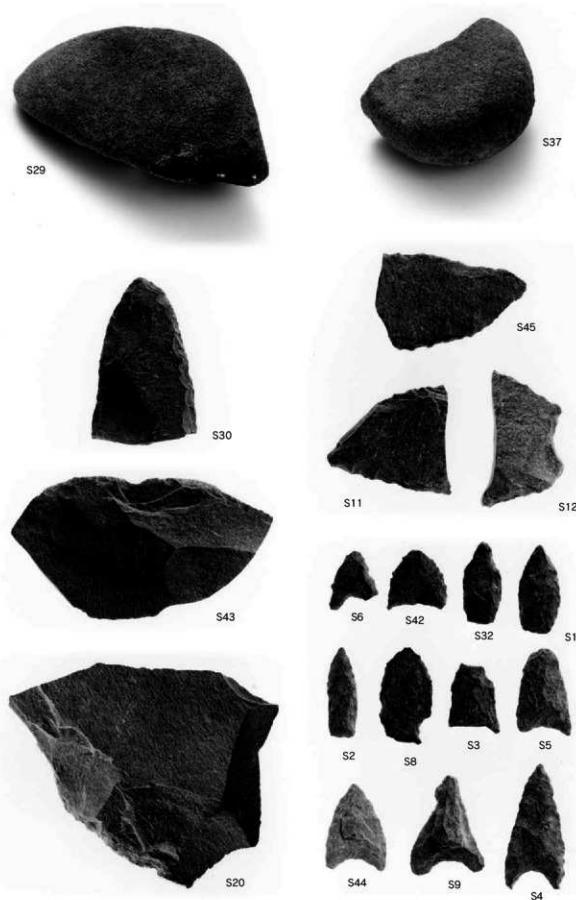


写真 52 VII区出土遺物③

報 告 書 抄 錄

ふりがな	おくのぼういせきぐんVIII (おくのぼういせきVII区)						
書 名	奥の坊遺跡群VIII (奥の坊遺跡VII区)						
副 書 名	高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷 次	第 8 冊						
シ リ ー ズ 名	高松市埋蔵文化財調査報告						
シ リ ー ズ番 号	第 126 集						
編 著 者 名	大嶋 和則						
編 集 機 関	高松市教育委員会						
所 在 地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号 TEL087-839-2660						
発 行 年 月 日	西暦 2010 年 3 月 31 日						
ふりがな 所収遺跡名	じょざいわ 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
おくのぼういせき 奥の坊遺跡	かほせけん 香川県 たかまつし 高松市 たかまつち 高松町	37201	34° 19' 30"	134° 07' 30"	1999.11.10 ~ 2000.3.3	1,200 m ²	高松市東 部運動公 園整備事 業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
奥の坊遺跡	集落	弥生	堅穴住居跡 土坑	弥生土器、石器			
要 約	奥の坊遺跡は高松平野の東を画する丘陵部に所在する。南向きの緩斜面に當まれた弥生時代中期前半の集落跡で、古代や近世の遺構も見られる。本書は、遺跡北部の北端にあたるVII区の報告書である。緩斜面に當まれた集落城の最上部にあたり、堅穴住居跡や土坑を検出した。						

高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 8 冊

奥の坊遺跡群VIII (奥の坊遺跡 VII区)

平成 22 年 3 月 31 日

編 集 高松市教育委員会
高松市番町一丁目 8 番 15 号
発 行 高松市教育委員会
印 刷 有限会社 中央ファイリング

